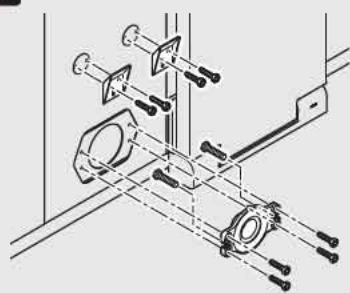


STEP13. 幼児用小便器

1 幼児用小便器の取り付け準備



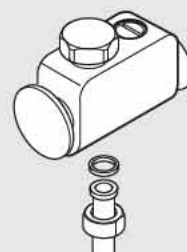
▶P.75

2 幼児用小便器の取り付け



▶P.75

3 給水金具の取り付け

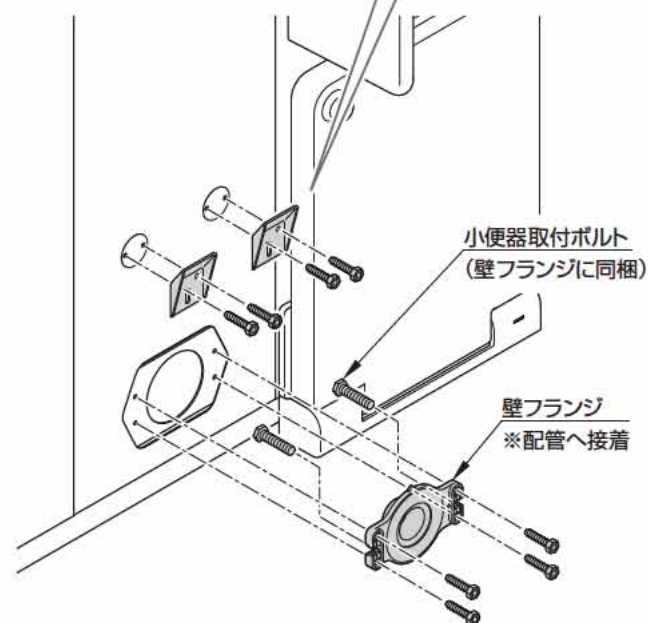


▶P.76

※下記の手順は点検口が左の場合です。点検口が右の場合でも同様です。

1 幼児用小便器の取り付け準備

- ① アプセットタッピンねじ $\phi 6 \times 30$ (4本)
※長穴部分は使用しない
- バックハンガー
- 水平確認

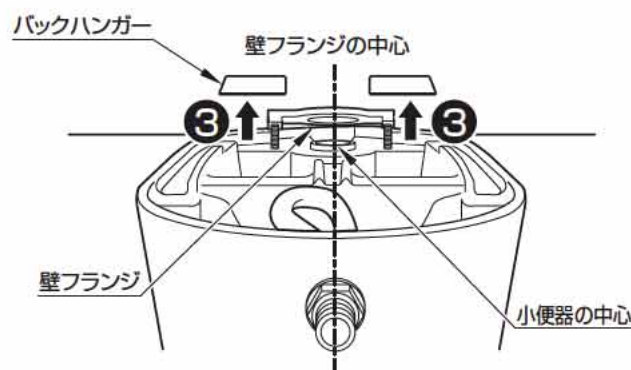
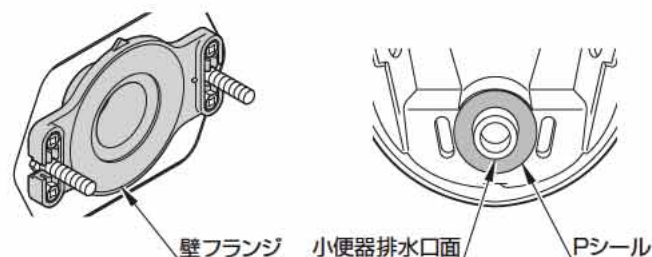


- ② 「幼児用小便器部フレーム」に同梱
アプセットタッピンねじ $\phi 6 \times 30$ (4本)
壁フランジに同梱のタッピンねじ $\phi 6 \times 50$ (4本) は使用しない
取付強度の確保のため

※壁フランジの接着方法は壁フランジに同梱の説明書を必ずご覧ください。

2 幼児用小便器の取り付け

- ① 小便器排水口面・壁フランジのごみを取り除く
- ② Pシールを小便器排水口に取り付ける



- ④ 小便器を壁フランジに押し付けPシールをつぶす
※壁フランジの固定ボルトが小便器固定長穴の中心にくるように小便器の位置調整を行ってください。
小便器排水口と壁フランジの中心がずれると小便器を取り付けることができません。

小便器を強く押し込みすぎない

キズ防止

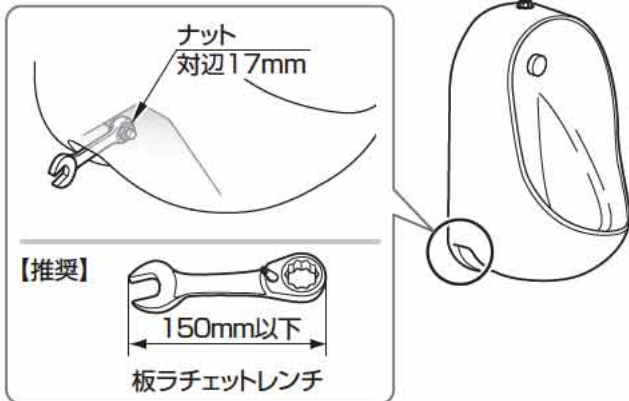
13

幼児用小便器

- ⑤** スパッド上部の水平レベルを確認
※給水金具が取り付けられない場合
があります。
※壁フランジから水漏れする
おそれがあります。



- ⑥** ワッシャー(壁フランジ同梱部品)とナットで
小便器を固定する



⚠ 注意

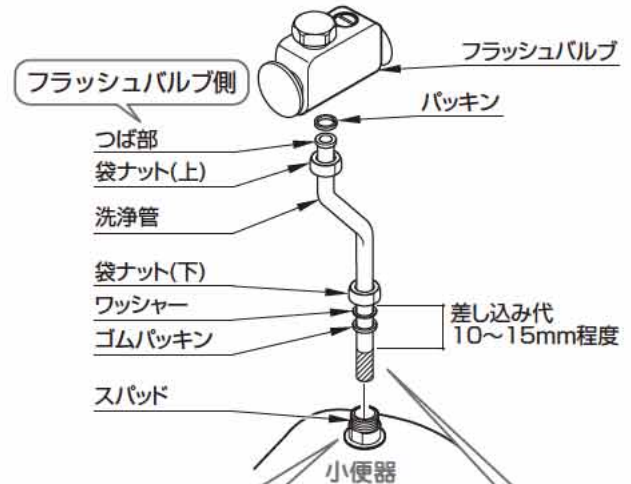


禁止

ナットをきつく締めすぎない

小便器本体・排水フランジが割れて水漏れして建物や
設備などをめらす財産損害発生の原因となります。

- ③** 洗浄管の取り付け



- ③-②** 洗浄管を取り付ける



- ③-①** ※斜線部分
カット



⚠ 注意



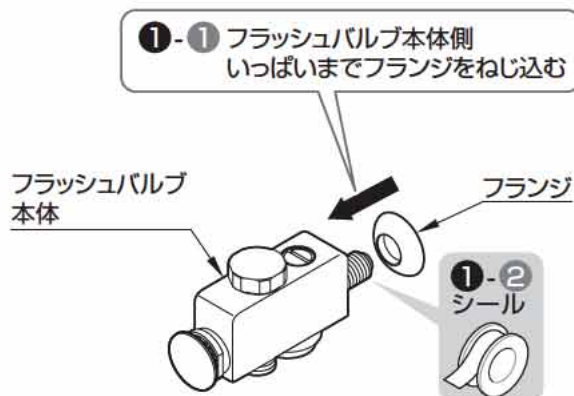
必ず守る

袋ナット(下)はスパッドを工具などで固
定して締め付ける

スパッドが共回りし、スパッド下のホースがキンク
し、水漏れ・洗浄不良の原因になることがあります。

3 給水金具の取り付け

- ①** フラッシュバルブの取り付けの準備



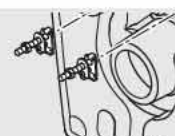
- ②** フラッシュバルブの取り付け

- ②-① フラッシュバルブ本体を給水アダプターに取り付ける
②-② フランジを前板に突き当たるようにねじ込む

MEMO

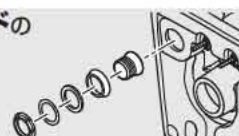
STEP 14. 汚物流し

1 陶器固定ボルトの取り付け



▶P.77

2 スパッドの取り付け



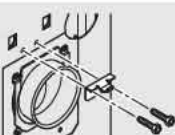
▶P.77

3 排水パッキンの取り付け



▶P.78

4 ブラケットの取り付け



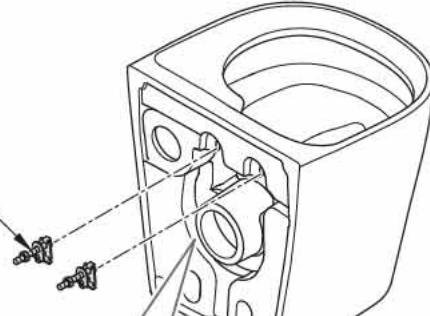
▶P.78

5 汚物流しの取り付け



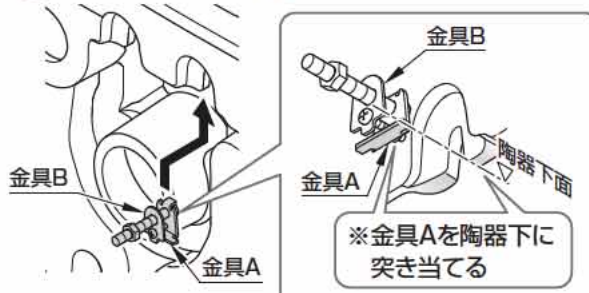
▶P.78

1 陶器固定ボルトの取り付け



陶器固定ボルトセット(2個)

① 金具AとBで陶器を挟み込む



金具B
金具A
陶器下面
※金具Aを陶器下に突き当てる

② ナットを工具で締め込む

注意

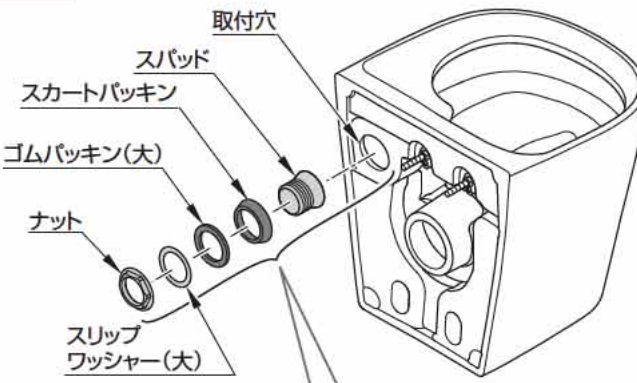
ナットをきつく締めすぎない
陶器が割れ、けがの原因になります。

③ 陶器固定ボルトの小ねじを締め込む



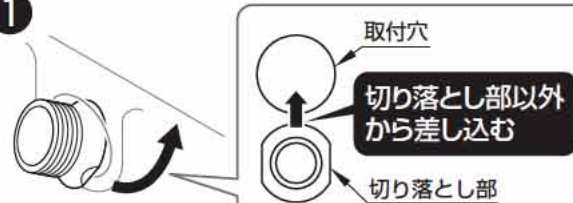
手締めで

2 スパッドの取り付け



取付穴
スパッド
スカートパッキン
ゴムパッキン(大)
ナット
スリップワッシャー(大)

①



取付穴
切り落とし部以外から差し込む
切り落とし部

②



取付穴に差し込む
スカートパッキン

③



組み込む
ゴムパッキン
スリップワッシャー

④



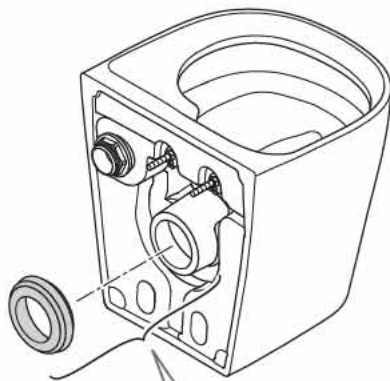
取付穴の中心で引き寄せ、手で締め込む

⑤



最後に工具で締め込む
モーターレンチ

3 排水パッキンの取り付け



排水パッキン

排水ソケット側

汚物流し排水口
装着側

汚物流し排水口外周の汚れを取り除き、装着する

⚠ 注意



禁止

グリスは使用しない

劣化し水漏れして建物や設備などをめらす財産損害発生の原因となります。

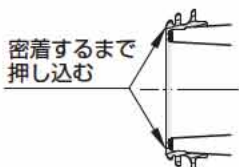


必ず守る

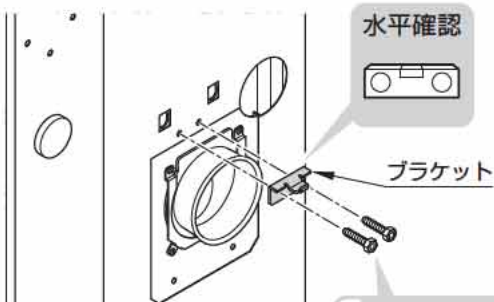
- ・汚物流し排水口装着側に必ず水または石けん水をつけてから差し込む

- ・排水パッキンは汚物流し排水口に密着するまで押し込む

水漏れして建物や設備などをめらす財産損害発生の原因となります。

密着するまで
押し込む

4 ブラケットの取り付け



水平確認

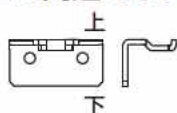
ブラケット

アブセットタッピンねじ
φ6×30(2本)

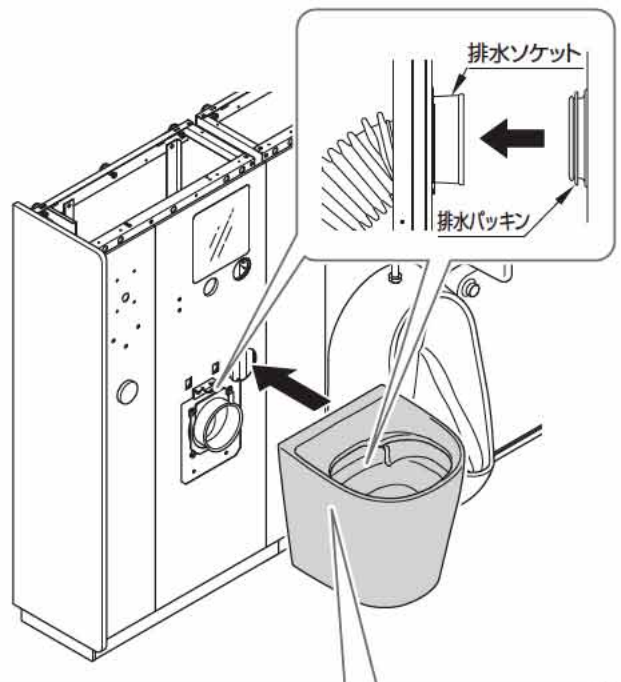
⚠ 注意



必ず守る

ブラケットの取り付け向きを間違えない
器具が落下してけがを
する原因となります。

5 汚物流しの取り付け

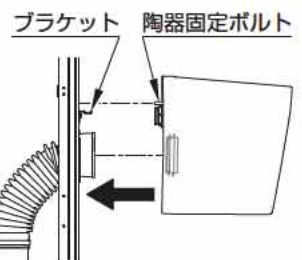


排水ソケット

排水パッキン

①

陶器固定ボルトを
前板の開口に、陶器
排水口を排水ソケット
にそれぞれ水平に
差し込む

※陶器を取り付ける際、
前板を傷つけないよう
に注意する

ブラケット

陶器固定ボルト

②

陶器をブラケットの
上に載せる

⚠ 注意



禁止

- ・グリスは使用しない

劣化し水漏れして建物や設備などをめらす財産損害発生の原因となります。

- ・排水パッキンを他の部位にぶつけない

- ・排水パッキンを強引に挿入しない
パッキンが変形したりめくれたりして
水漏れして建物や設備などをめらす財産
損害発生の原因となります。



必ず守る

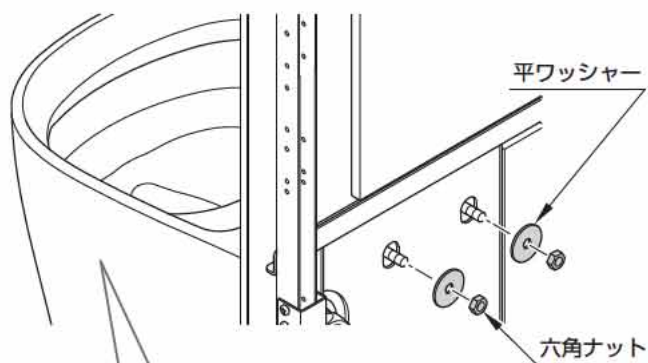
排水パッキン表面に必ず水または石けん
水をつけてから差し込む

MEMO

③ 陶器固定ボルトをライニングの内側から工具を使用し確実に固定する

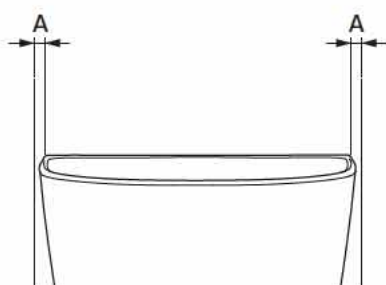
⚠ 注意

⚠ 必ず守る 平ワッシャー、六角ナットは忘れずに取り付ける
陶器が落下し、けがの原因となります。

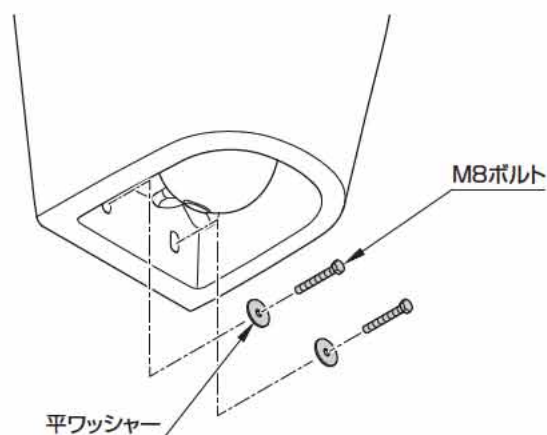


下記内容を確認

- ☐ 陶器が水平に取り付けられているか
- ☐ 陶器両端と前板の間隔Aが均一か



④ 本固定

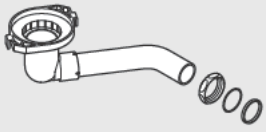


⚠ 注意

⊘ 禁止 ボルトをきつく締めすぎない
陶器が割れ、けがの原因になります。

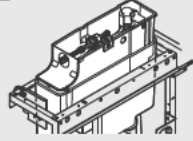
STEP15.汚物流し用セットタンク

1 タンク接続管の取り付け



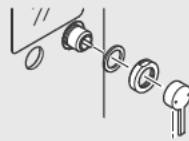
▶P.80

2 セットタンクの取り付け



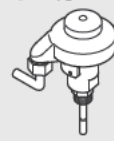
▶P.81

3 シングルレバーの取り付け



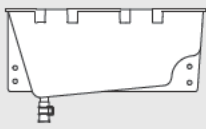
▶P.82

4 バキュームブリーカーの取り付け



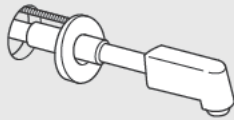
▶P.82

5 水受けトレイの取り付け



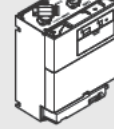
▶P.83

6 水栓スパウトの取り付け



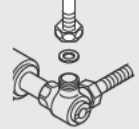
▶P.84

7 電気温水器の取り付け



▶P.85

8 シングルレバーの給水・給湯ホースの接続



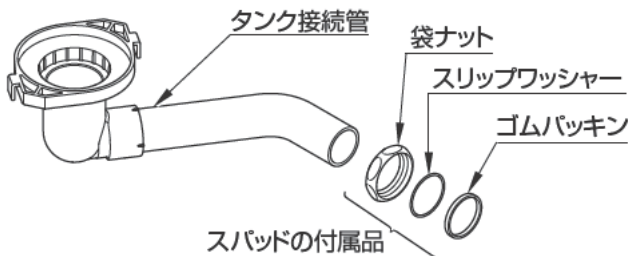
▶P.85

1 タンク接続管の取り付け

※本施工説明書では、点検口左の場合を記載します。

① 汚物流し部の前板(点検口)を取り外す

② タンク接続管の仮組み

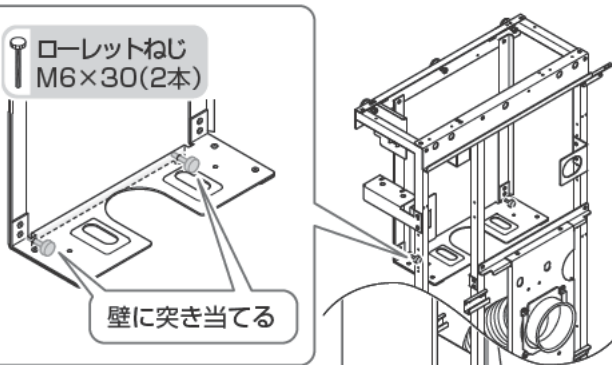


⚠ 注意

袋ナット・スリップワッシャー・パッキンの取り付け順番を間違えないようにする
必ず守る 水漏れとして、家財などをめらす財産損害発生の原因となります。

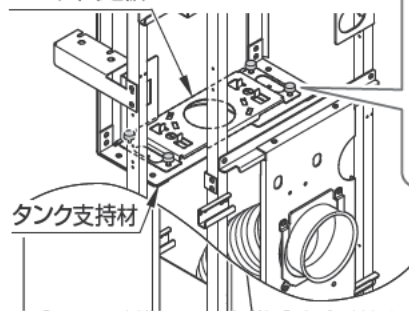
③ タンク支持材にローレットねじを壁に突き当たるように取り付ける

ローレットねじ
M6×30(2本)



④ タンク固定板をタンク支持材に仮置きする

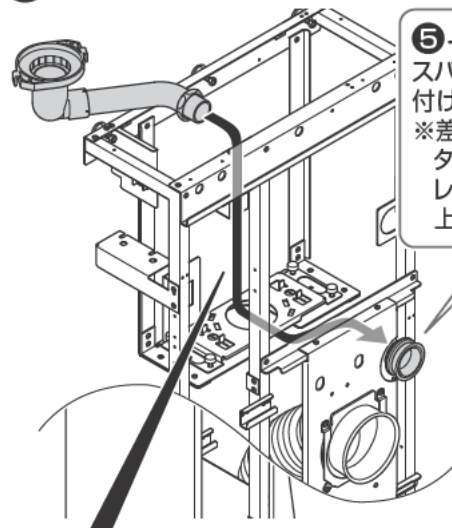
タンク固定板



ローレットねじの先端をタンク固定板より3mm程度出しておく

ローレットねじ
M6×16(4本)

⑤ タンク接続管の取り付け



⑤-②
スパッド(汚物流し取り付け済み)に差し込む
※差し込みにくい場合はタンク固定板のローレットねじ(4カ所)で上下調整する

⑤-①

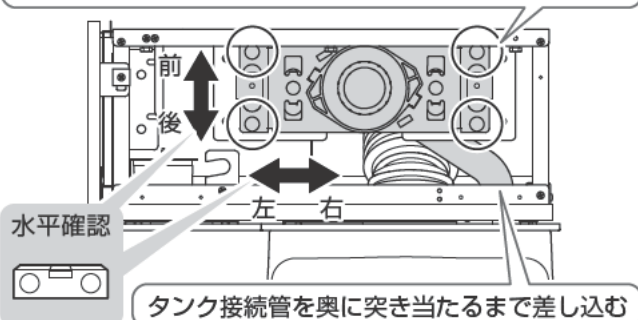
タンク接続管をタンク固定板に通す

点検口が右にある場合、タンク固定板に取り付けるつめの箇所が異なるので注意してください

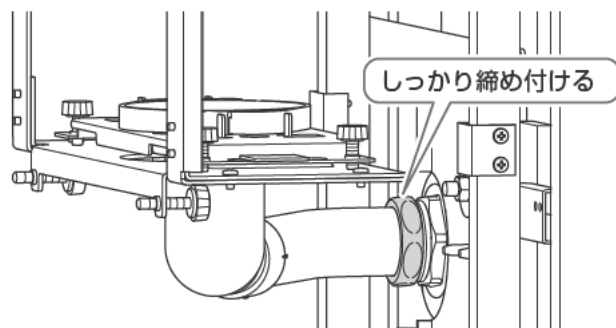


5-③ タンク接続管の位置調整

ローレットねじ(4カ所)をゆるめて前後・左右を水平に調整
※水平にならない場合は、タンク接続管をスパッドから外して、軽く押し込み再度調整してください。

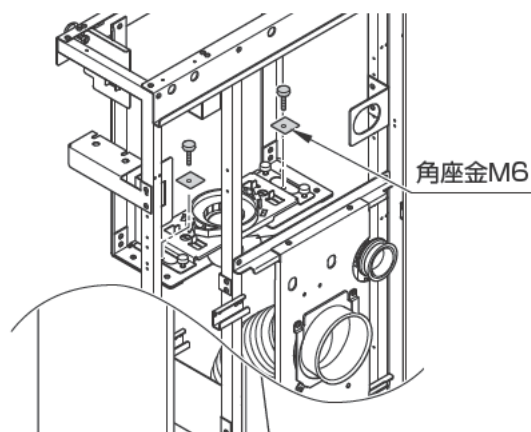


6 工具を使用して袋ナットを締め付ける



7 タンク固定板をローレットねじで取り付ける

ローレットねじ
M6×30 (2本)



⚠ 注意

⚠ 角座金は水平にセットすること
タンク固定板の固定が不十分になり異音発生の原因となります。

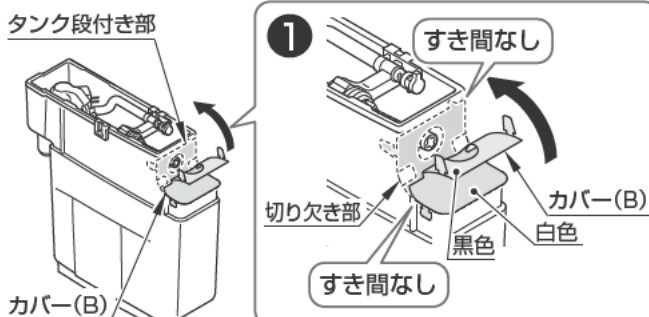
下記内容を確認

- ☐ タンク接続管がスパッドの奥に当たっていること
- ☐ タンク接続管が前後左右水平であること
- ☐ ローレットねじにゆるみ、ガタツキがないこと

2 セットタンクの取り付け

電気温水器ありの場合

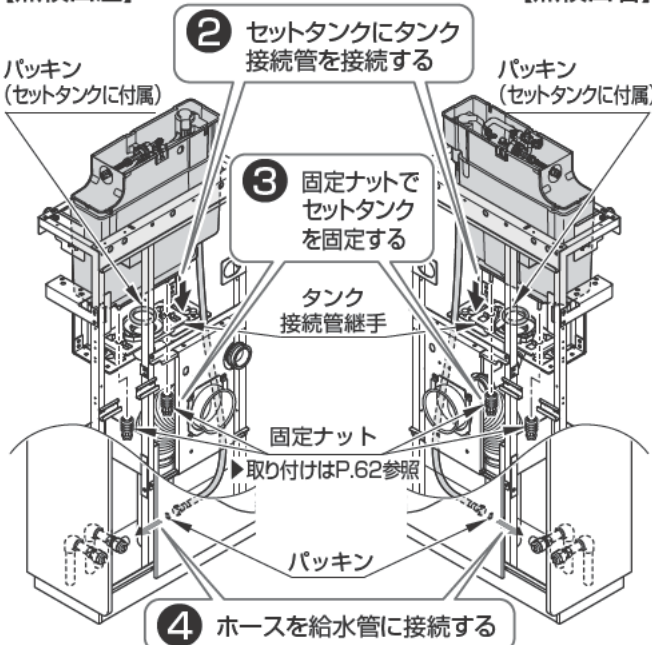
※電気温水器なし仕様の場合は、本作業は必要ありません。
②から作業してください。



※カバー(B)はフレーム部部品セットに梱包されています。
※カバー(B)は白色の面を外側にして取り付けてください。

【点検口左】

【点検口右】



下記内容を確認

- ☐ タンク接続管が逆勾配になっていないかを確認
- ☐ セットタンクの向き(左右)を確認

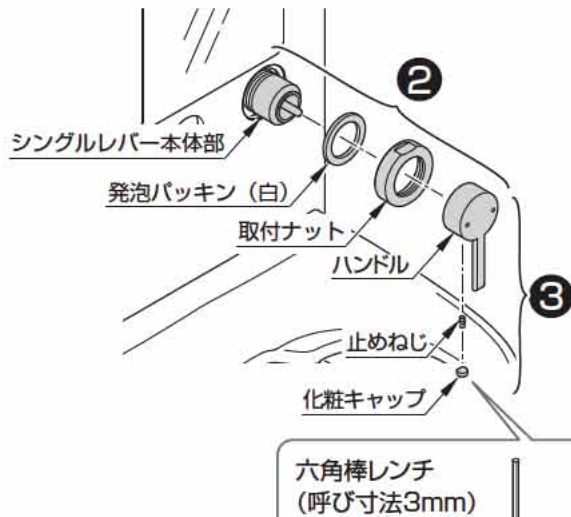
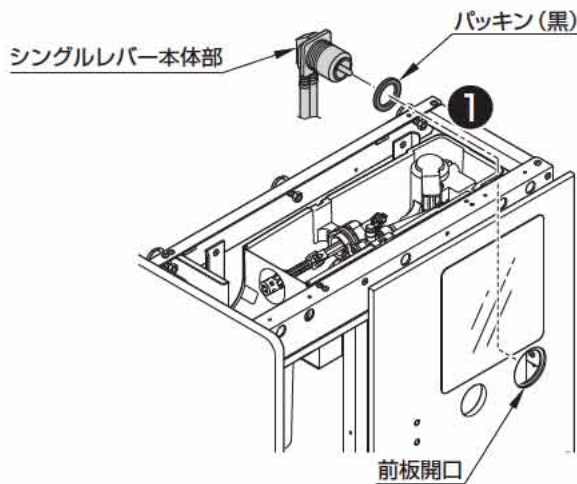
⚠ 注意

⚠ セットタンクにパッキンがセットされていることを確認する
必ず守る 水漏れして建物や設備などをめらす財産損害発生の原因となります。

⚠ 注意

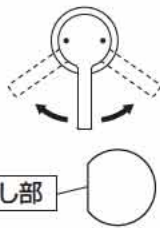
⚠ 再生水仕様の場合、水道水と再生水を間違えないよう給水接続をする
必ず守る

3 シングルレバーの取り付け

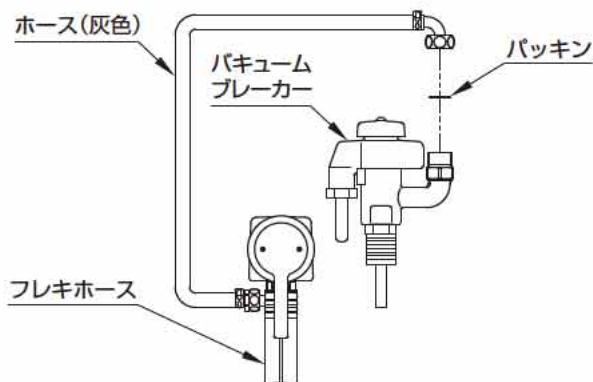


下記内容を確認

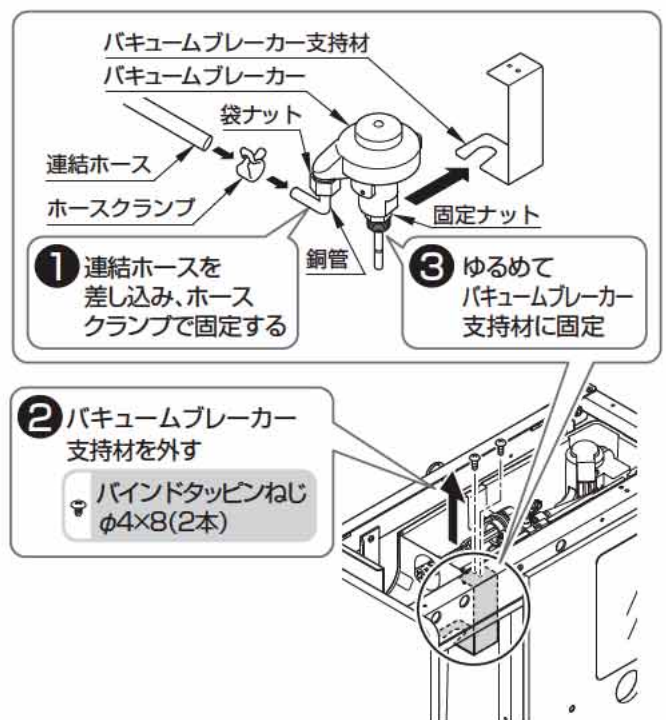
- ☐ ハンドルの向きは正しいか
(ハンドルの動作範囲は右図参考)
- ☐ ハンドルは確実に取り付いているか
(ハンドル操作で確認)
- ☐ 化粧キャップは栓の根元側に
切り落とし部がくるように取り
付けていること



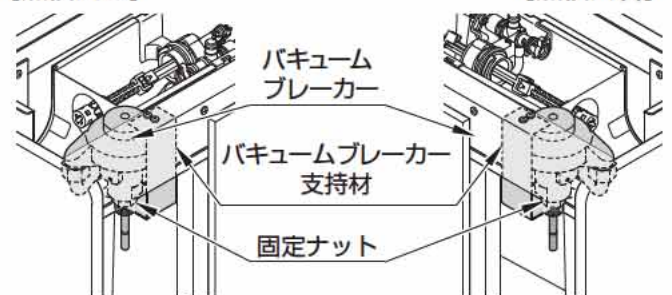
4 バキュームブレーカーの接続



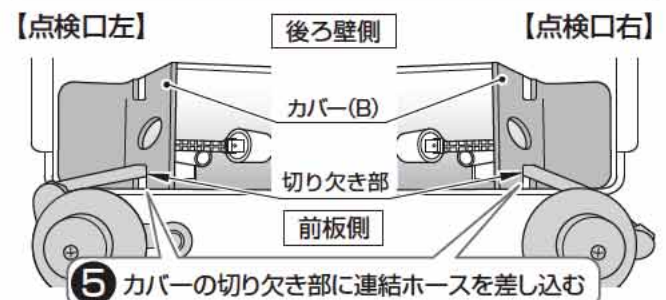
4 バキュームブレーカーの取り付け



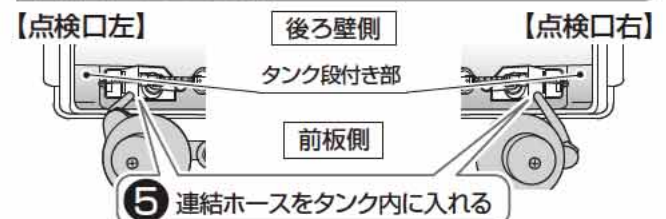
4 ②で外したねじでバキュームブレーカー支持材を取り付ける 【点検口左】 【点検口右】



電気温水器ありの場合



電気温水器なしの場合



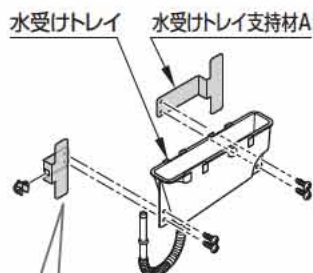
6 銅管の袋ナットを締め付ける

5 水受けトレイの取り付け

① 水受けトレイ支持材の取り付け

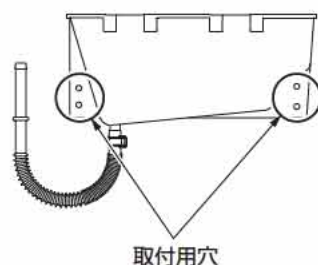
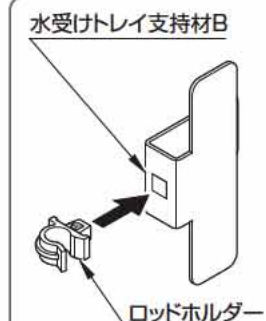
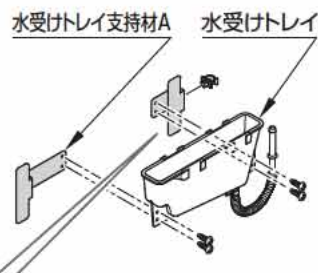
【点検口左の場合】

🔩 バインドタッピンねじ
φ4×8(4本)



【点検口右の場合】

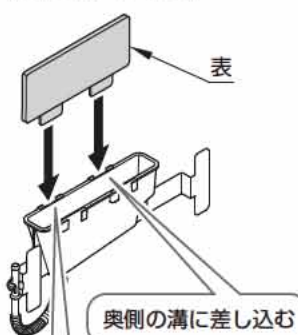
🔩 バインドタッピンねじ
φ4×8(4本)



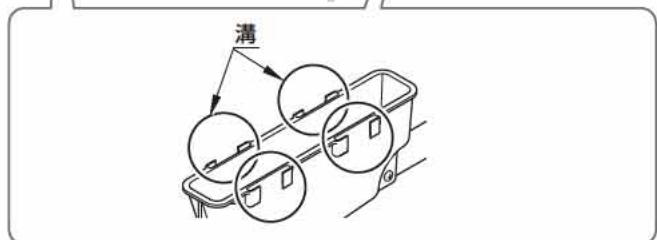
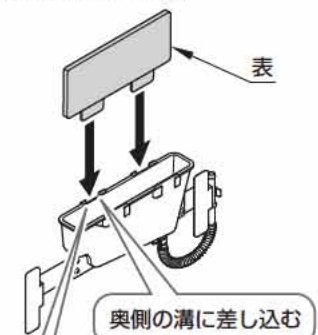
② 水受けトレイガイドの取り付け

※裏表あり 表: 平ら
裏: 溝あり

【点検口左の場合】



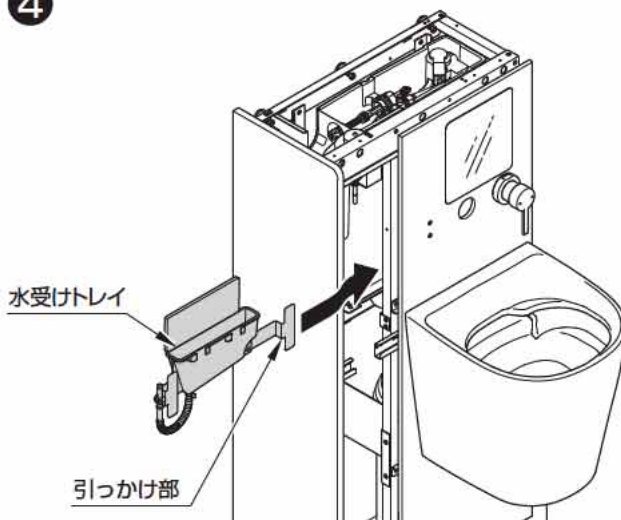
【点検口右の場合】



③ 下記内容を確認

□ 水受けトレイガイドが溝に正しく差し込まれていることを確認
※ 正しく差し込まれていないと水栓が取り付けません。

④



⑤ 下記内容を確認

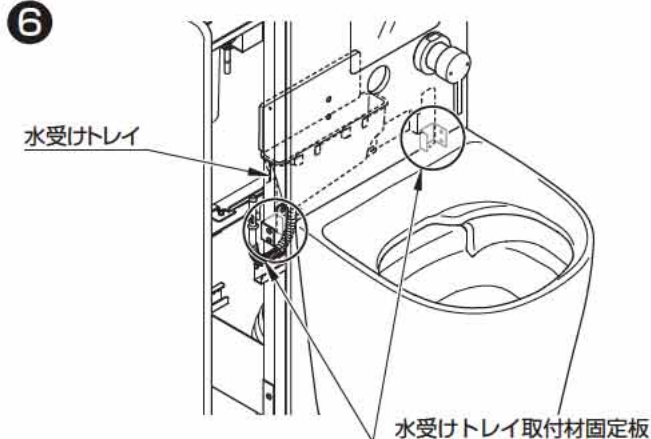
□ 水受けトレイの向きを確認

□ 水受けトレイガイドが奥側(壁側)

□ 出っ張りが手前側

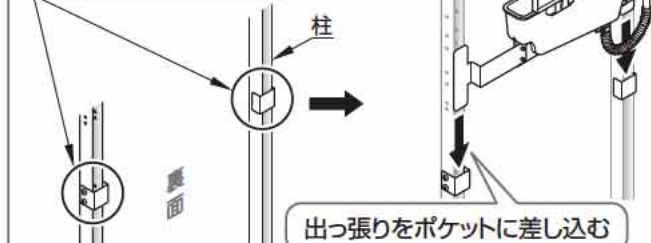
□ ホースが点検口側

⑥



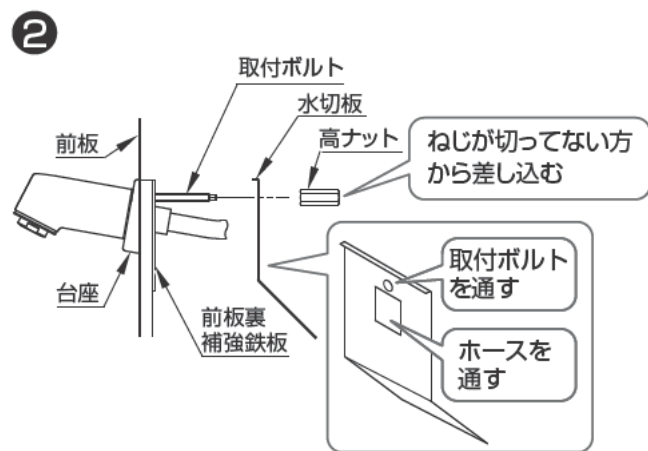
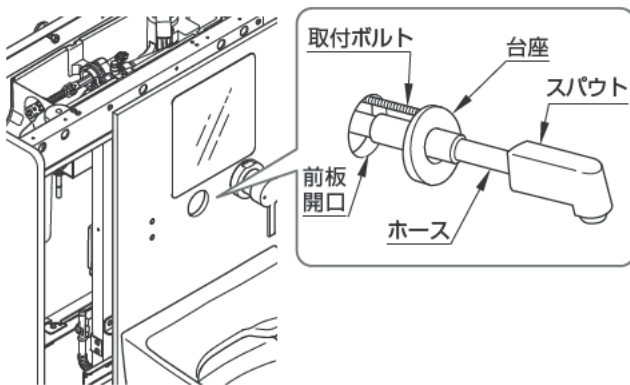
※ フレーム内側から見た図

水受けトレイ取付材固定板 (ポケット 左右2カ所)



6 水栓スパウトの取り付け

- ① 取付ボルトを前板のホース用開口の上部の丸穴に挿入する

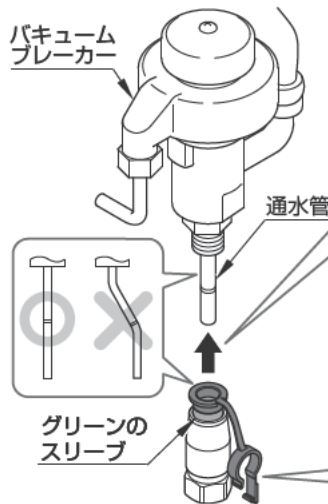


注意

水切板は必ず正しい位置に取り付ける
水切板は水栓使用時にホースを伝ってフレーム内に入った水を水受けトレイに誘導する役割があります。水切板が正しい位置に取り付いていないと水受けトレイから水漏れして建物や設備などをぬらす財産損害発生の原因となります。

必ず守る

- ③ ホースの接続

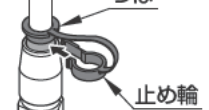


- ③-①

カプラーを通水管にそれ以上差し込めなくなるまでまっすぐ奥まで差し込む
※グリーンのスリーブが見えること。見えない場合は、見えるまでカプラーを真っすぐに奥まで差し込んでください。

- ③-②

つばの下に止め輪を横から入れる



- ③-③

止め輪のフックをかける



注意

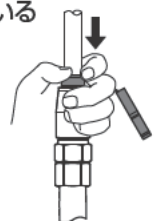
カプラーは通水管に真っすぐ奥まで差し込む
奥まで差し込まなかった場合、不完全な差し込み状態となり、水漏れして建物や設備などをぬらす財産損害発生の原因となります。

必ず守る

ホースの取り外し方法

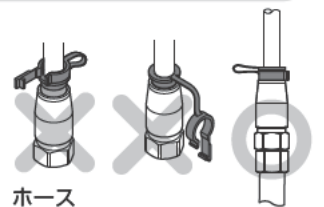
作業前には、レバーハンドルが閉じていることを確認してください

- ① フックを外す
- ② 止め輪を外す
- ③ つばを本体(金属)まで押し下げる
- ④ つばを押し下げたまま、カプラーを下に引き抜く

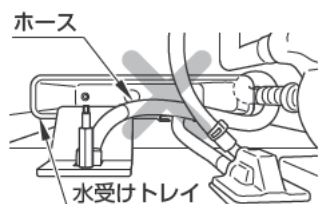
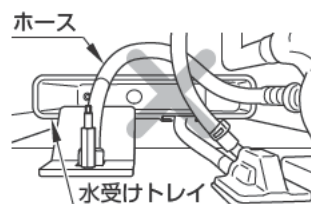
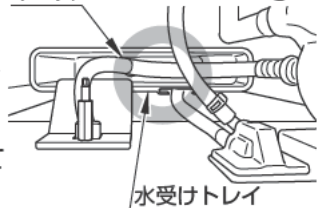


【チェック】

- ☐ フックは付いているか
- ☐ 止め輪がつばと本体の間に入っているか



- ☐ スパウトを台座に収納した際に、スパウトのホースが水受けトレイに納まっているか(フレームの上面から確認してください。)



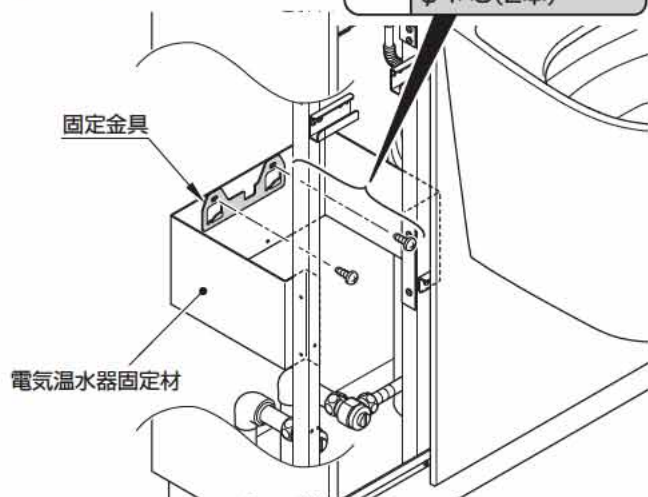
電気温水器ありの場合

7 電気温水器の取り付け

▶電気温水器施工説明書参照

① 固定金具取り付け

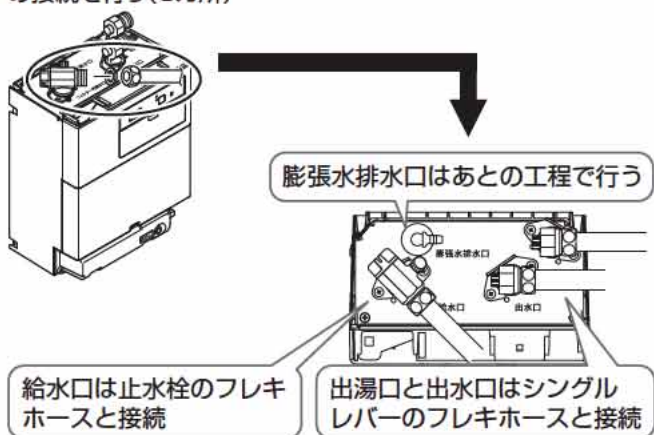
「フレーム」に同梱
バインドタッピンねじ
φ4×8(2本)



② 配管の接続

▶電気温水器施工説明書参照

本商品は、この工程では止水栓とシングルレバーのフレキホースの接続を行う(3カ所)

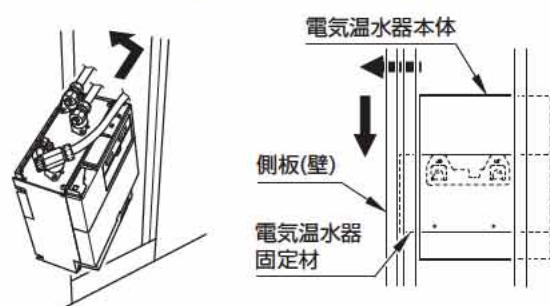


止水栓と電気温水器をフレキホース(L=900mm)で接続する

③ 斜めにしてフレーム内に入れて電気温水器を固定金具に引っかける

※電気温水器固定材の側板または壁に添わせると、固定金具に取り付けやすくなります。

※電気温水器の下部固定はありません。



電気温水器なしの場合

8 シングルレバーの給水・給湯ホースの接続

① シングルレバーの給水・給湯ホース(フレキホース)の接続

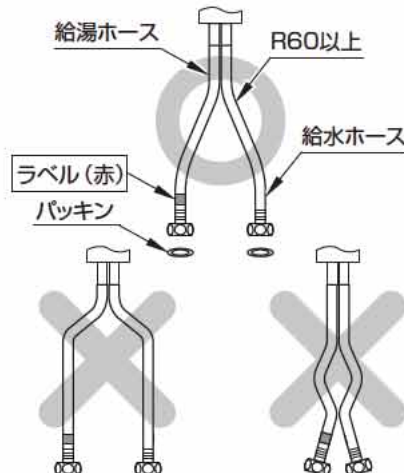
⚠ 注意

ホースを必要以上の力で曲げて折らない
ホースの最小曲げ半径は60mmです。それよりも小さく曲げて使用するとホースが破損して水漏れして建物や設備などをめらす財産損害発生の原因となります。

ホースを必要以上に接触させない
外部補強層の摩擦によりホースに傷が付いて水漏れして建物や設備などをめらす財産損害発生の原因となります。



禁止



ホースを水栓本体端面から極端に歪曲して施工しない、無理に引っ張らない
ホースが破損して水漏れして建物や設備などをめらす財産損害発生の原因となります。



必ず守る

ホースを接続する際にパッキンの入れ忘れがないか確認する

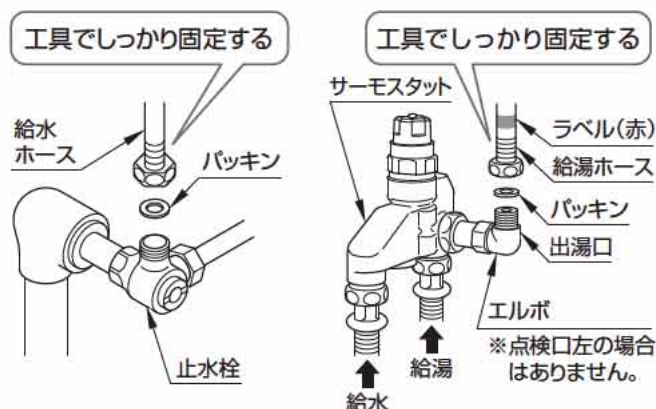
水漏れして建物や設備などをめらす財産損害発生の原因となります。

【給水ホース】

※点検口右再生水仕様の場合

【給湯ホース】

※点検口右の場合



STEP16.便器洗浄ユニット

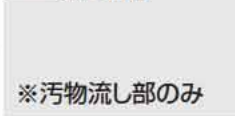
大便器部・汚物流し部共通です。

1 洗浄レバーの取り付け



▶P.86

2 受信ユニットの 取り付け



※汚物流し部のみ

▶P.87

3 ワイヤーユニットの 取り付け



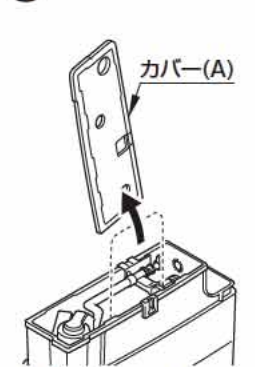
▶P.88

1 洗浄レバーの取り付け

ポイント

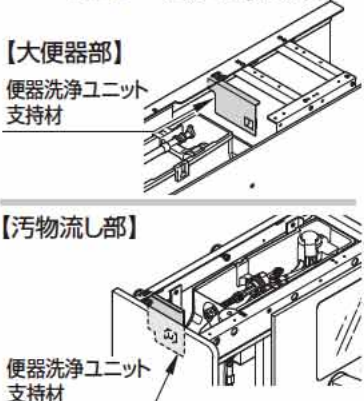
【停電対応ありの場合】
洗浄レバーはここで取り付けしません。
P.88で取り付けします。

1



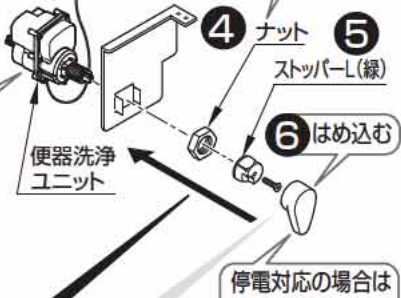
※パッキンははずさないで
ください。

2 便器洗浄ユニットの支持材 をフレームから取り外す



大便器部の場合のみウォシュレットへ接続
▶ウォシュレット施工説明書参照

工具でしっかり
固定する



7 シールの張り付け (停電対応の場合はありません)

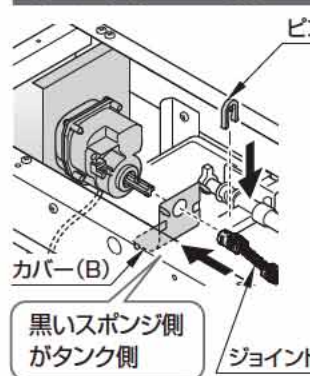


8 便器洗浄ユニットの支持材を元のフレームに取り付ける ※2で外したねじを使用します。

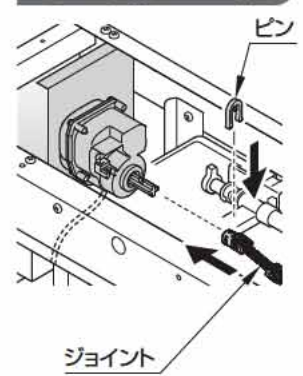
9 ジョイントからピンを取り外す

10 【汚物流し部のみ】

電気温水器ありの場合



電気温水器なしの場合

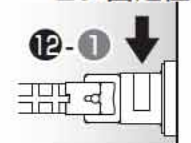


11 ジョイントを便器洗浄ユニットに取り付ける

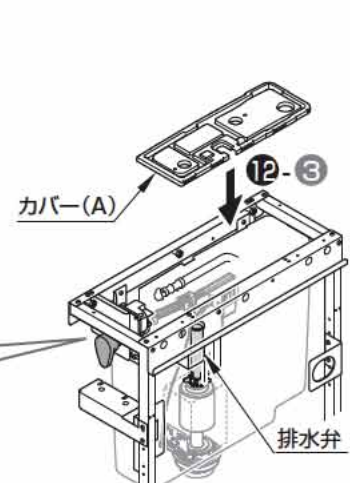
12 下記内容を確認

□ジョイントが抜けないことを確認

ピン固定位置

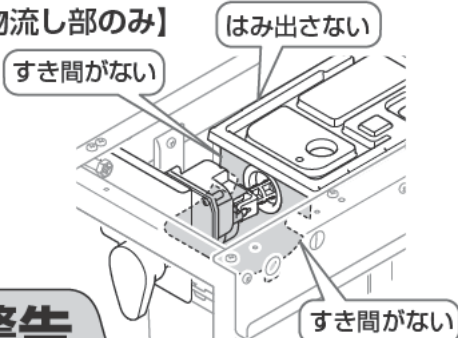


□レバーを「大」側に回して、排水弁のみが引き上がることを
確認してから、カバー(A)を付ける



電気温水器ありの場合

13 【汚物流し部のみ】



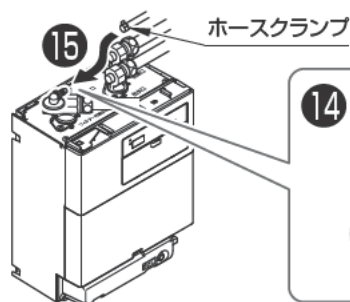
警告



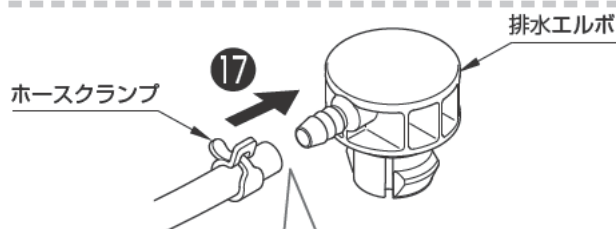
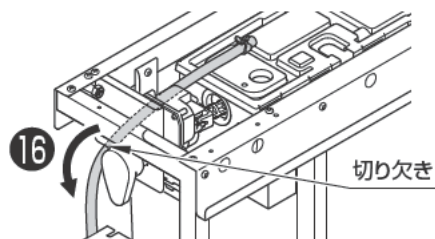
セットタンクのカバー(A)、カバー(B)はタンクとのすき間ができないように確実に取り付ける

必ず守る

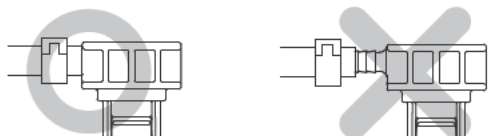
水濡れにより、感電、または、建物や設備などをめらす財産損害発生の原因となります。



14 奥まで確実に差し込みホースクランプで固定する



奥まで確実に差し込む



警告



軟質ホースは継手の根元まで手で差し込み、ホースクランプを確実に取り付ける
水漏れして建物や設備などをめらす財産損害発生の原因となります。

必ず守る

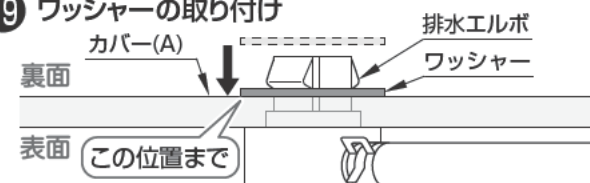
18 排水エルボの取り付け

【左にレバーハンドルがある場合】

【右にレバーハンドルがある場合】



19 ワッシャーの取り付け



※ワッシャーを少し傾けるとはめ込みやすくなります。
ワッシャーを取り付け後、外れないことを確認してください。

2 受信ユニットの取り付け

【汚物流し部】

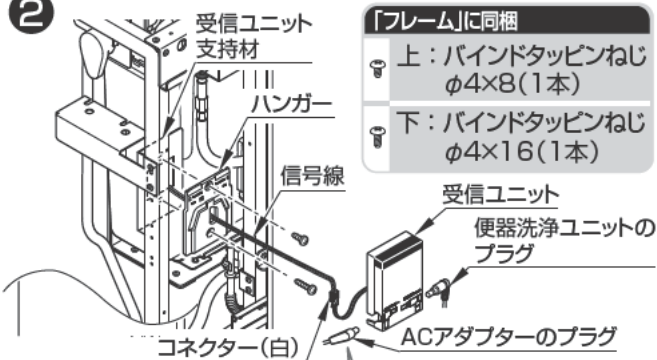
受信ユニットは点検口側への取り付けとなります。

1 受信ユニットをハンガーから外す



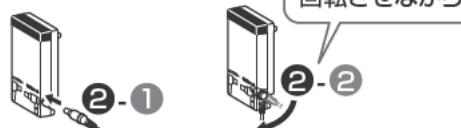
※強く上へあげますと信号線が切れるおそれがあります。

2



※コネクターが白色の信号線のみ接続します。他の2本は使用しません。

【便器洗浄ユニットのプラグ】



【ACアダプターのプラグ】



注意

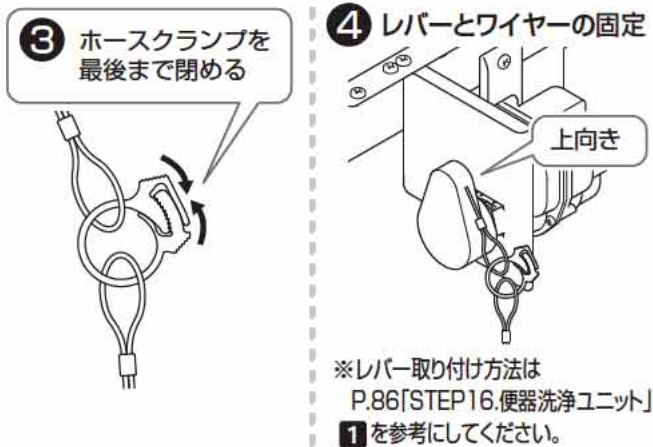
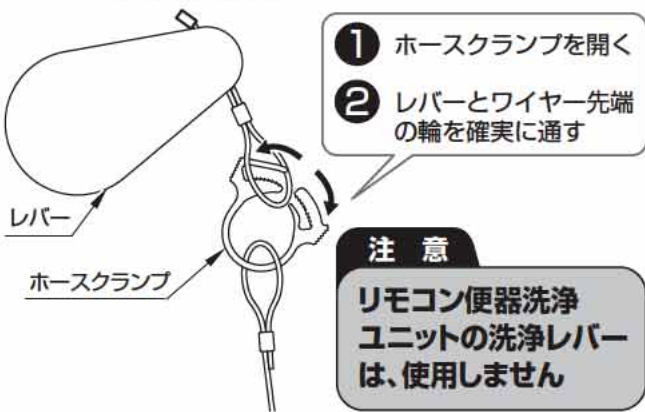


プラグを逆に差し込まない
壊れる可能性があります。

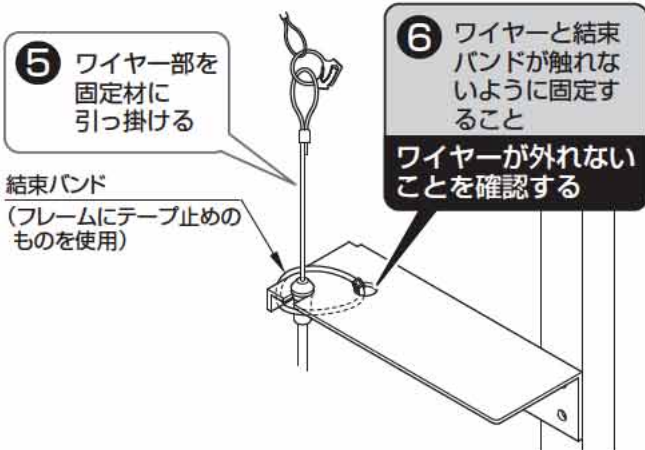
禁止

3 ワイヤーユニットの取り付け

※停電対応の場合



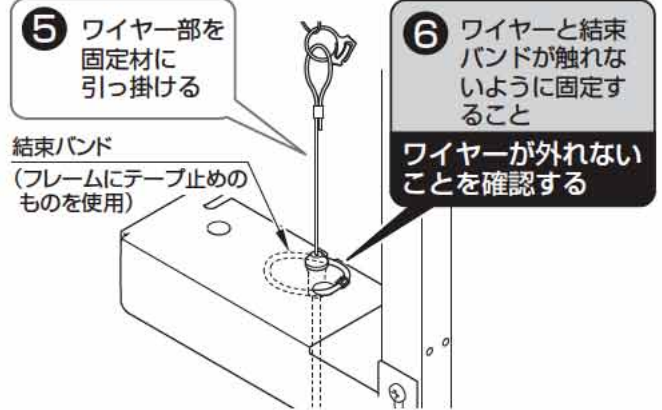
大便器の場合



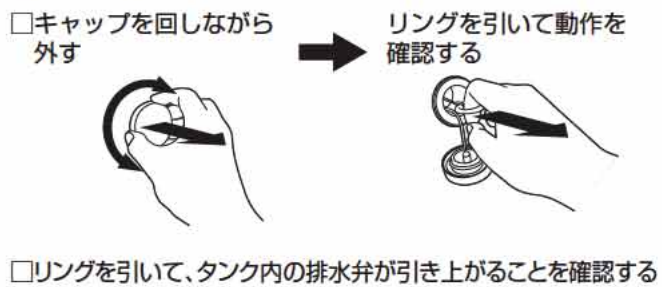
汚物流しの場合 (点検口右の場合)



汚物流しの場合 (点検口左の場合)



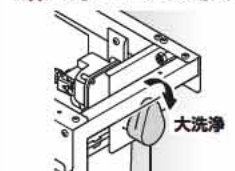
⑦ 下記内容を確認



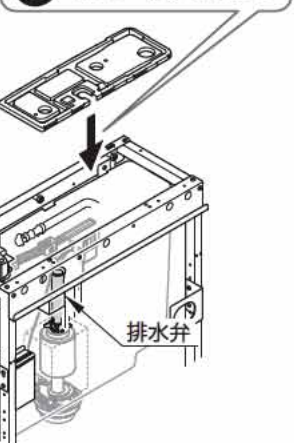
(左に洗浄レバーがある場合)



(右に洗浄レバーがある場合)



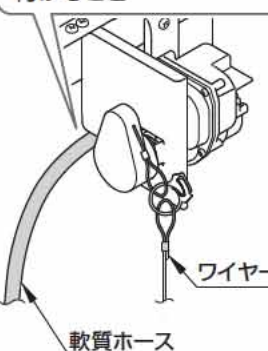
⑧ カバー(A)を付ける



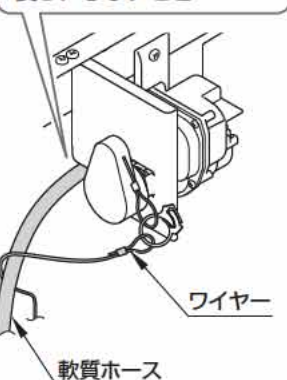
注意

ワイヤーと軟質ホースを絡ませないこと
洗浄レバーが正常に作動しません。

軟質ホースを切り欠き
通してからワイヤーを取り
付けること



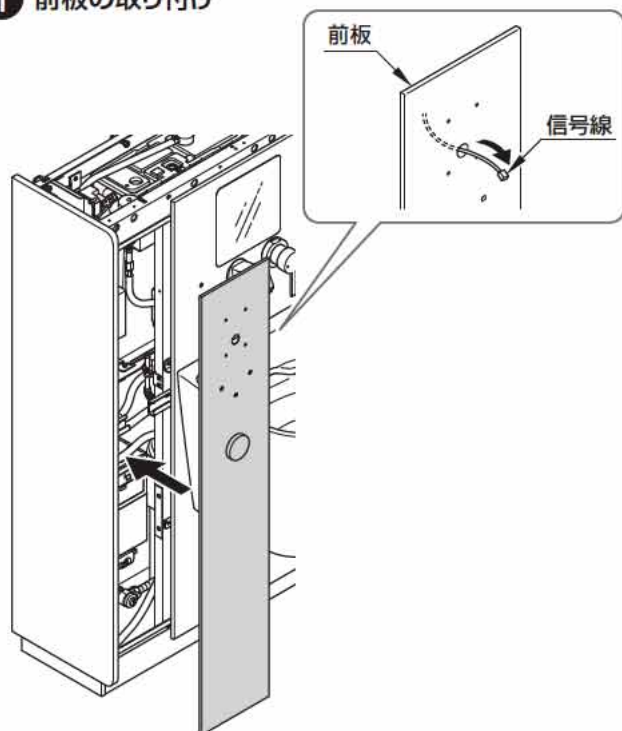
ワイヤーを軟質ホースの
後ろにしないこと



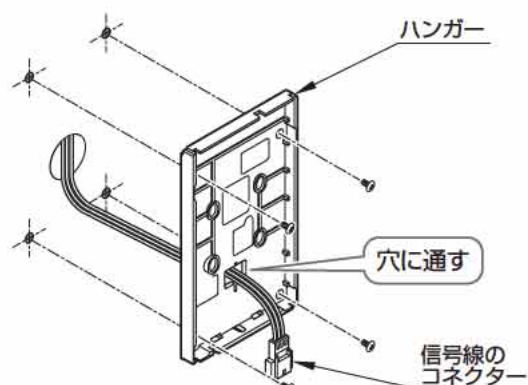
STEP17.タッチスイッチ

1 タッチスイッチの取り付け

① 前板の取り付け



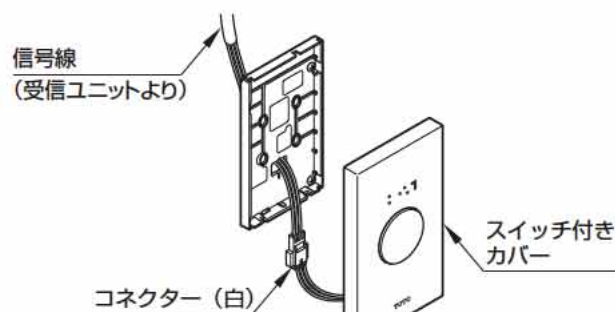
② ハンガーの取り付け



手締めで
✗

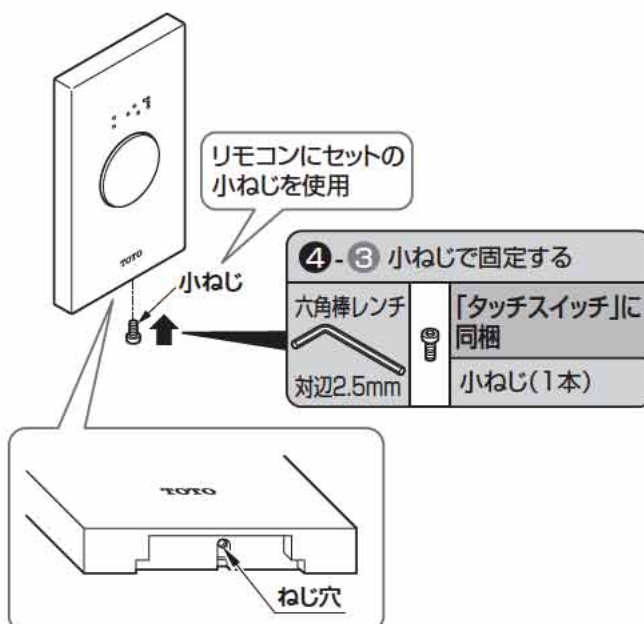
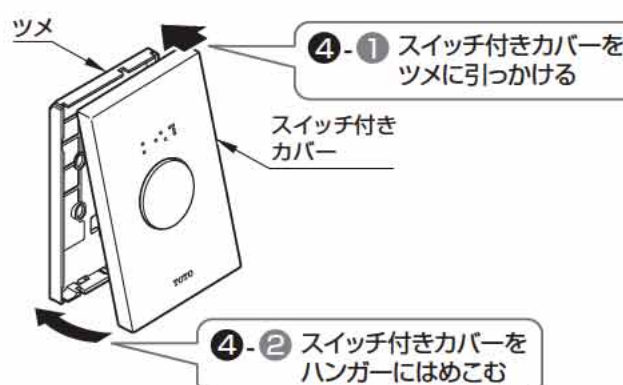
「前板ねじセット」に同梱
バインドタッピンねじ
φ4×8 (4本)

③ コネクターの接続



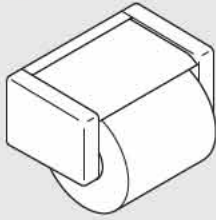
- ・スイッチユニットを落下させない
コードがコネクターから抜けるおそれがあります。
- ・コネクターを確実に差し込む
きちんと作動しない可能性があります。

④ スwitch付きカバーの取り付け



STEP18.器具類

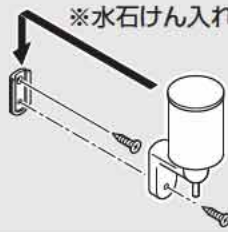
1 紙巻器



▶P.90

2 汚物流し用水石けん入れ

※水石けん入れありの場合

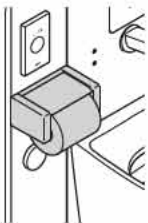


▶P.90

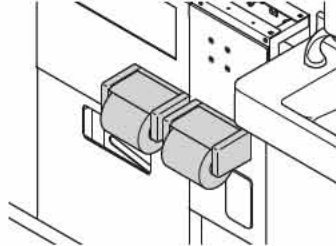
1 紙巻器

▶紙巻器施工説明書参照

汚物流し部用

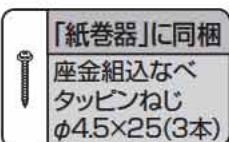


操作系部用



※操作系部用紙巻器は
P.98「STEP21.大便器周辺器具類」
取り付け後、紙巻器取り付けください。

取り付け



下穴

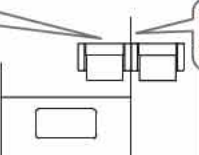


注意

紙巻器の位置をあわせる
前板が外せない場合があります。

2つの紙巻器の
上端をあわせる

前板のあわせと
紙巻器をあわせる



注意



取付完了後、商品にガタツキがないこと
を確認する

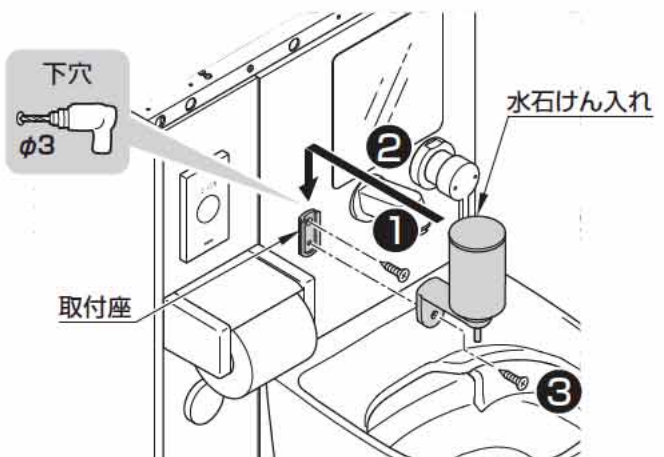
商品にガタツキがあると、商品が外れたり、壁が
壊れたりして使用される方が転倒し、けがをする
おそれがあります。

2 汚物流し用水石けん入れ

※水石けん入れありの場合

取付座を上側の皿タッピンねじ1本で取り付け、水石けん入れを
上から差し込み下側のねじで共締めする。

皿タッピンねじ
φ4.5×30(2本)



注意

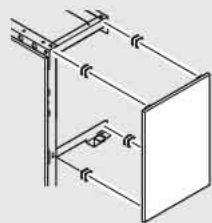


必ず守る

下穴をあける際、ドリルでセットタンクに
穴をあけないように注意する
水漏れして建物や設備などをめらす財産損害
発生の原因となります。

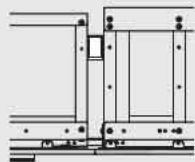
STEP19.甲板

1 側面パネルの取り付け



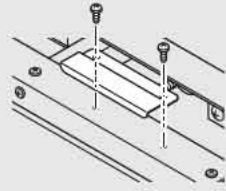
▶P.91

2 甲板の取り付け準備



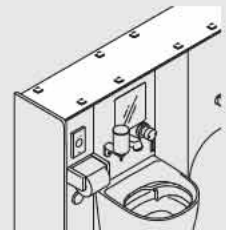
▶P.91

3 底目地受材・底目地材の取り付け



▶P.92

4 甲板の取り付け



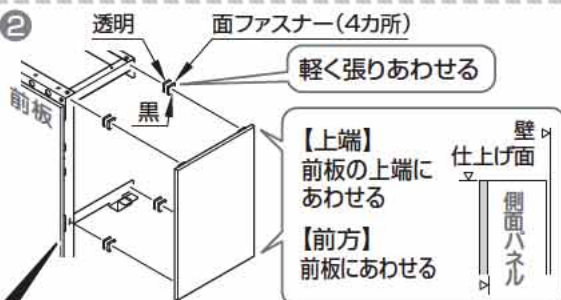
▶P.94

1 側面パネルの取り付け

① 大便器部上の側面パネルの仮組み

①-① 養生フィルムをはがす

①-②



脱脂



フレームのほこり・油分除去
接着力低下防止

①-③ 面ファスナーの確認

面ファスナー(黒)が側面パネルの裏面に全て張り付いているか側面パネルを一度取り外し、確認してください。

【面ファスナーがフレーム側に残っている場合】

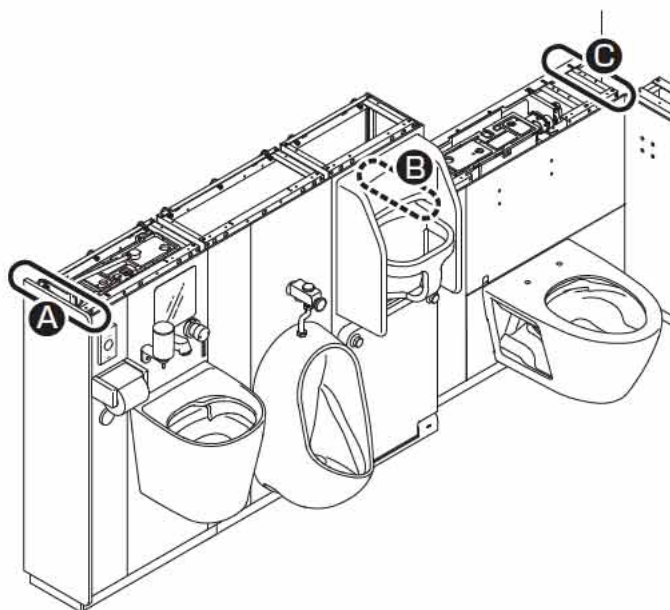
(1)面ファスナー(黒)を外す

(2)フレーム側の面ファスナー(透明)の位置にあわせて、面ファスナー(黒)を側面パネルに張り直す

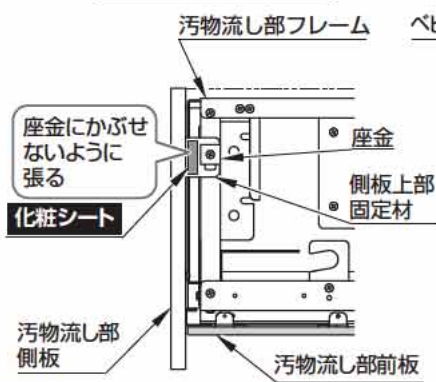
2 甲板の取り付け準備

大便器部・汚物流し部フレーム上面(下図 A B C の位置)に化粧シートを張り付ける(3カ所)

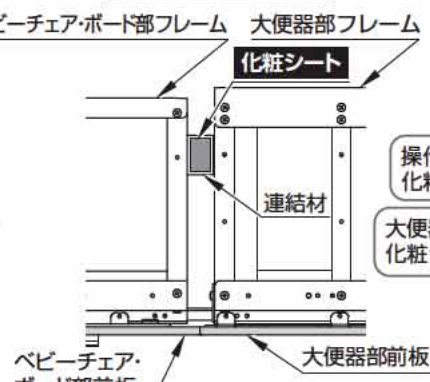
※大便器部側板・操作系部側板の側板上部固定材に化粧シートを張り付ける場合は、Aと同様に張り付けてください。



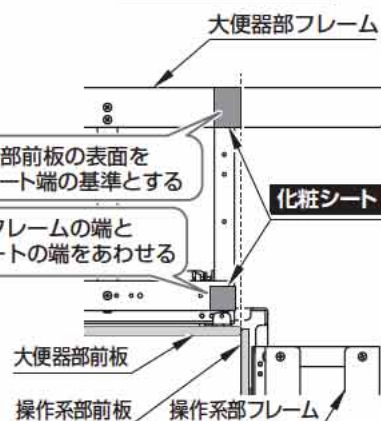
A 張り付け位置



B 張り付け位置



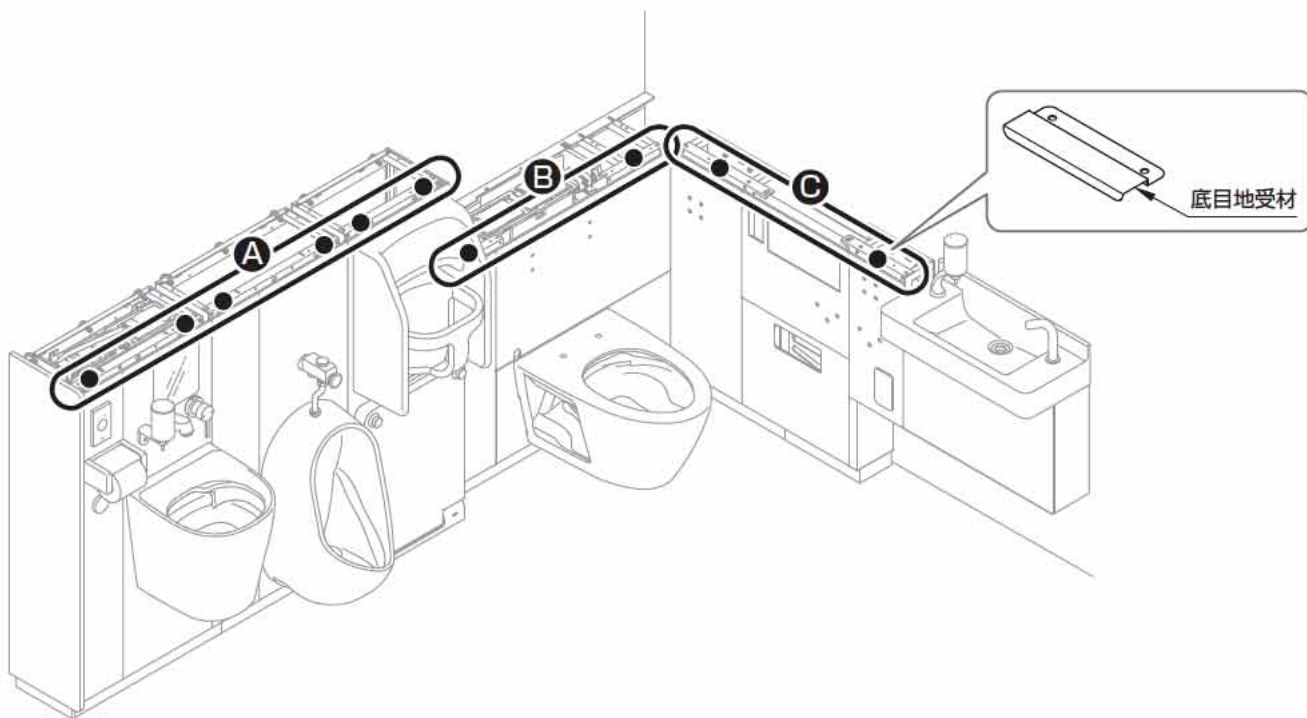
C 張り付け位置



3 底目地受材・底目地材の取り付け

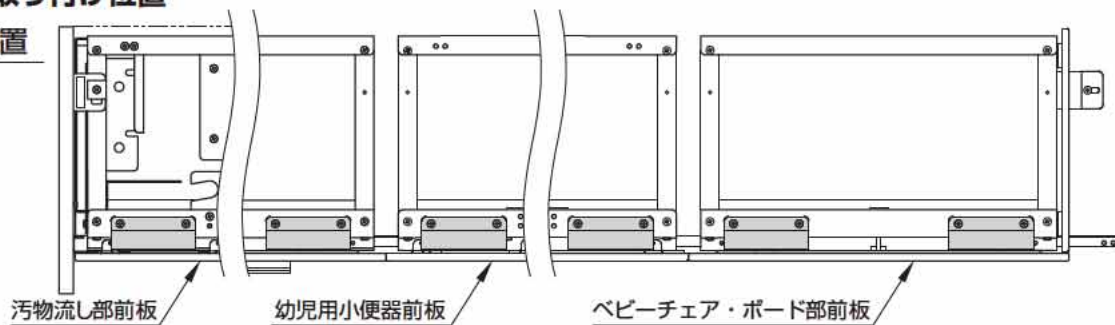
底目地受材(●の位置)を取り付け(10カ所)、底目地材(A B Cの位置)を張り付ける(3カ所)

※ A がベビーチェア・ボード部、幼児用小便器部、汚物流し部の場合は、底目地材を重ねて張り付ける。

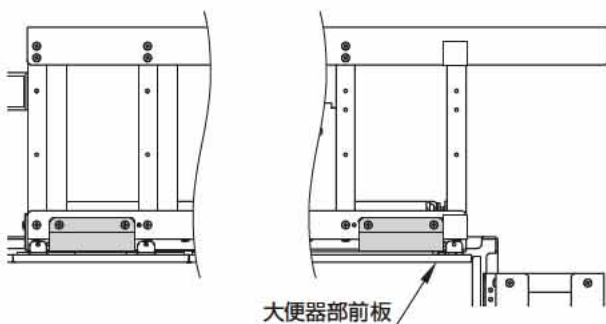


底目地受材の取り付け位置

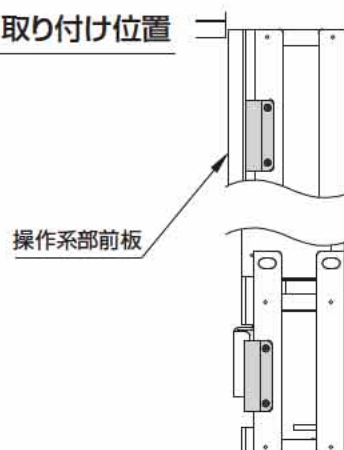
A 取り付け位置



B 取り付け位置

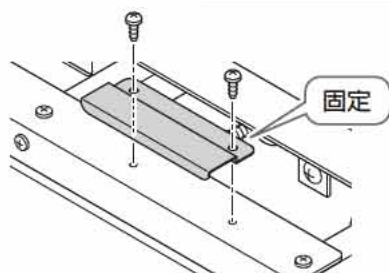


C 取り付け位置



① 底目地受材の取り付け

バインドタッピンねじ
φ4×8(2本)



② 各フレームの長さにあった底目地材を選定し、養生フィルムをはがす

③ 両面テープを張り付けて、剥離紙をはがす

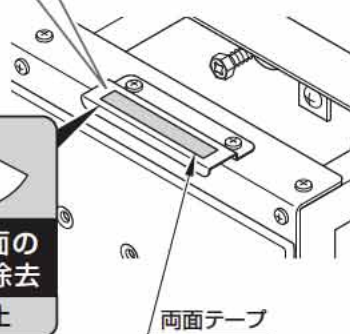
両面テープ



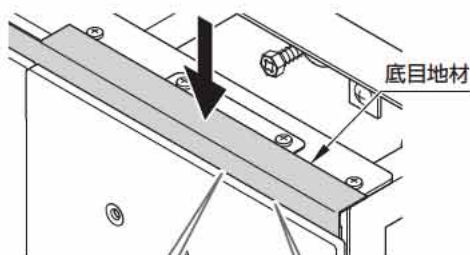
脱脂



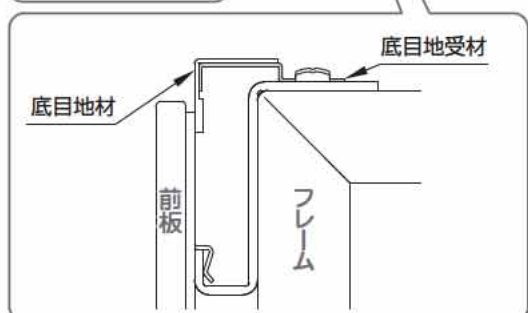
底目地材裏面の
ほこり・油分除去
接着力低下防止



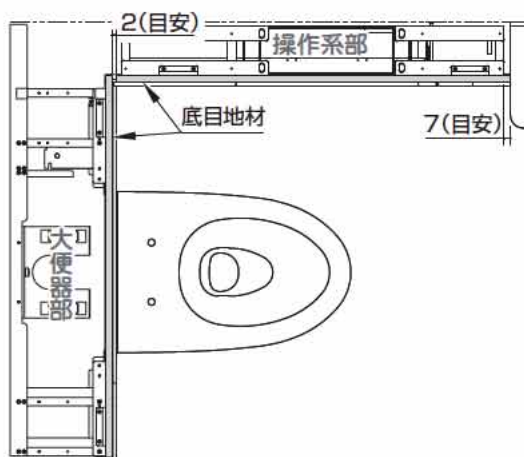
④ 底目地材の取り付け



底目地材を載せて
張り付ける



⑤ 底目地材の調整



【ベビーチェア・ボード部、幼児用小便器部、汚物流し部の3器具がある場合】

側面パネル ▽ 底目地材端部

ベビーチェア・
ボード部

幼児用
小便器部

汚物流し部

側板

壁

⑤-①

長い底目地材の端部を
側面パネルの際にあわせる

⑤-②

底目地材の端部を汚物流し部の前板端面
にあわせ、A寸法-15mmとしてカットする
※A寸法-15mmが548mm以上の場合、
底目地材のカットは不要

A寸法
側板または
壁の仕上げ面

カット



バリを取る

【ベビーチェア・ボード部、幼児用小便器部、汚物流し部の内、2器具以下の場合】

側面パネル ▽ 底目地材端部

2器具以下

B寸法

側板または
壁の仕上げ面

側板

壁

⑤-①

底目地材の端部を側面パネルの際に
あわせ、B寸法-15mmとしてカットする

カット

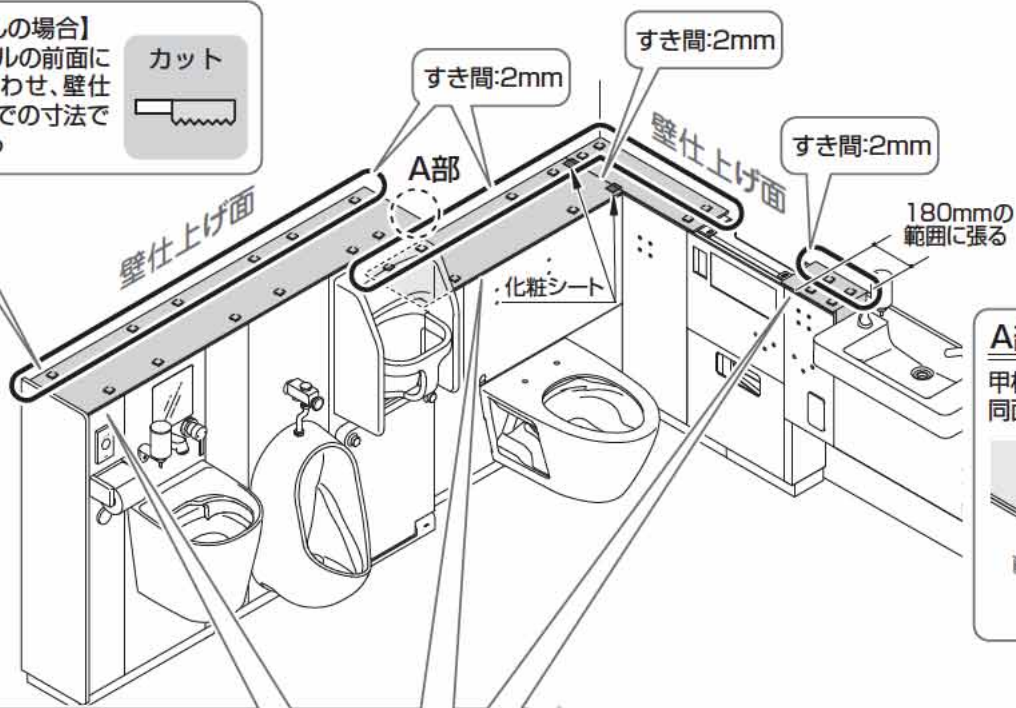


バリを取る

4 甲板の取り付け

【側板なしの場合】
側面パネルの前面に
甲板をあわせ、壁仕
上げ面までの寸法で
カットする

カット



A部

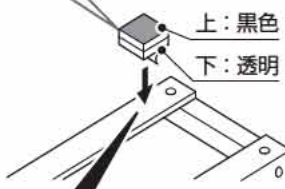
甲板は側面パネルと
同面の位置で取り付ける



1 面ファスナーの張り付け

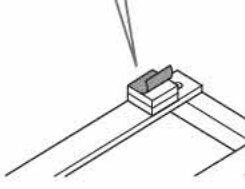
底目地受材やねじの上に
面ファスナーを張らない

①-① 最初に軽くはめあわせ、
剥離紙をはがす



上: 黒色
下: 透明

①-② 剥離紙をはがす



脱脂



フレームの
ほこり・油分除去
接着力低下防止

※ねじ頭を避け、上図を参考に前後1カ所ずつ張り付ける
※化粧シート(上図■)とかぶらないように張り付ける

2 甲板の取り付け



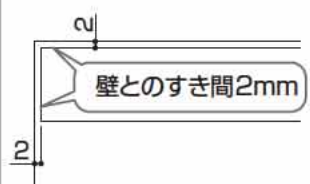
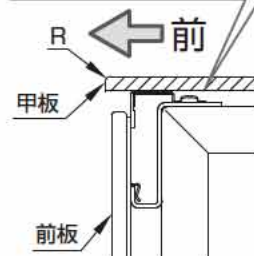
脱脂



甲板裏面のほこり・
油分除去
接着力低下防止

面取り側を必ず手前にする

上からしっかり押さえつけて
面ファスナーをはめ合わせる



壁とのすき間2mm

※必要に応じて、「フレーム部
部品セット」に同梱のライナー
をスペーサーとして使用して
ください。

3 下記内容を確認

- 面ファスナー(黒)が甲板の裏面に全て張り付いているか甲板を一度取り外し、確認する。
- 面ファスナーが所定の箇所に張り付いているかを確認する。

【面ファスナーがフレーム側に残っている場合】

③-① 面ファスナー(黒)を外す

③-② フレーム側の面ファスナー(透明)の寸法にあわせて、面ファスナー(黒)を甲板に張り直す

注意

この段階では甲板にシリコン系シール剤を塗布しない

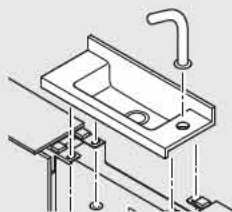
STEP20.手洗器

1 排水金具の取り付け



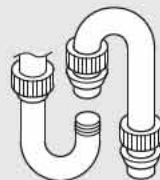
▶P.95

2 手洗器の取り付け



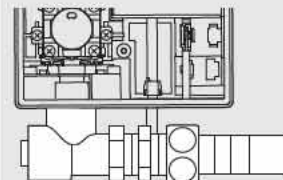
▶P.95

3 排水管の接続



▶P.95

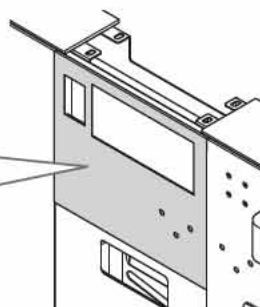
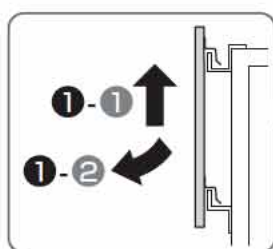
4 止水栓・給水管の接続



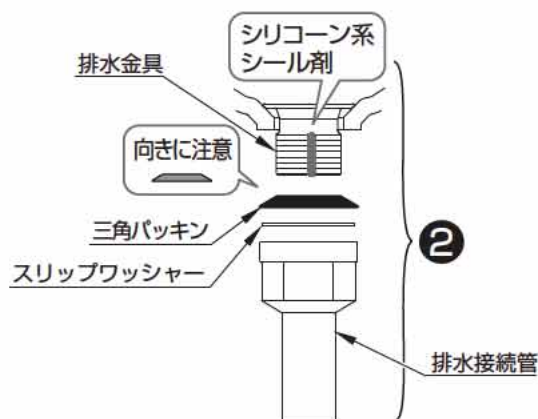
▶P.96

1 排水金具の取り付け

① 前板を外す



② 手締めで止まる位置まで回し、工具にて半回転締め付ける



2 手洗器の取り付け

▶取り付け方法は自動水栓施工説明書参照

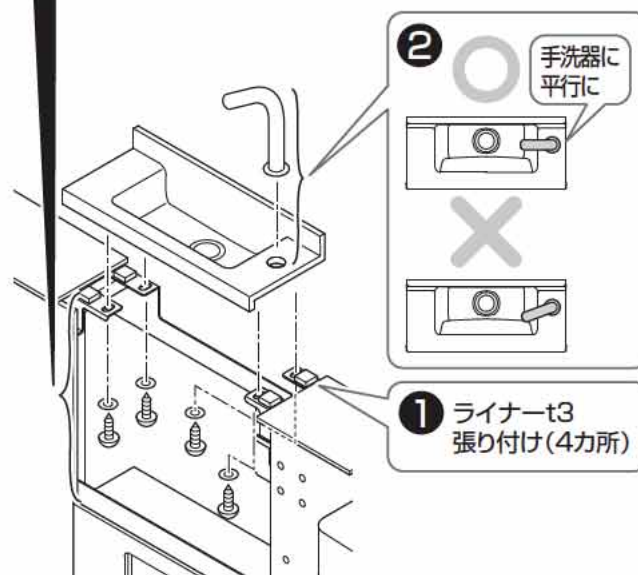
③ 手締めで



「手洗器」に同梱

⌘ トラストピンねじ $\phi 4 \times 16$ (4本)

◎ 平座金 (4個)



⚠ 注意



必ず守る

排水金具ねじ部には、必ずシリコン系シール剤を塗布する

水漏れして建物や設備などをめらす財産損害発生の原因となります。



禁止

接続管を締め過ぎない

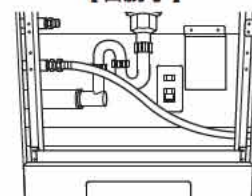
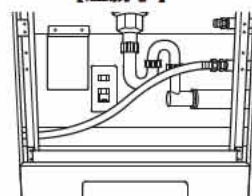
排水金具が破損して水漏れして建物や設備などをめらす財産損害発生の原因となります。

3 排水管の接続

排水管取付位置

【左勝手】

【右勝手】

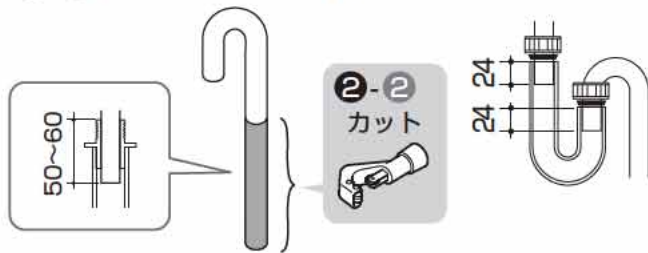


① 壁排水ソケットを排水管に仮固定する

※接着剤は塗布しないでください。

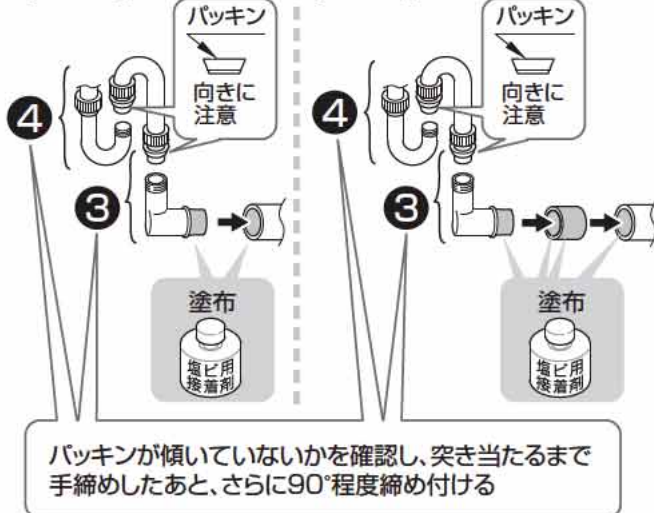
② トラップのカット

②-① トラップ(上)をトラップ(下)の奥まで入れる



【VP40】

【VU40】



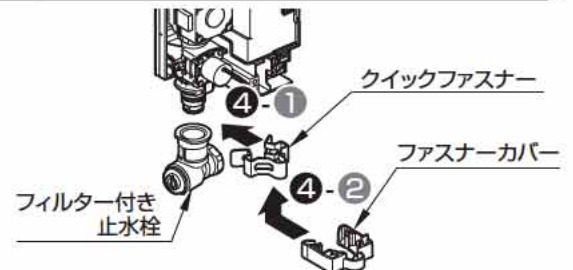
③ 止水栓の向きを変える



④ 止水栓を元に戻す

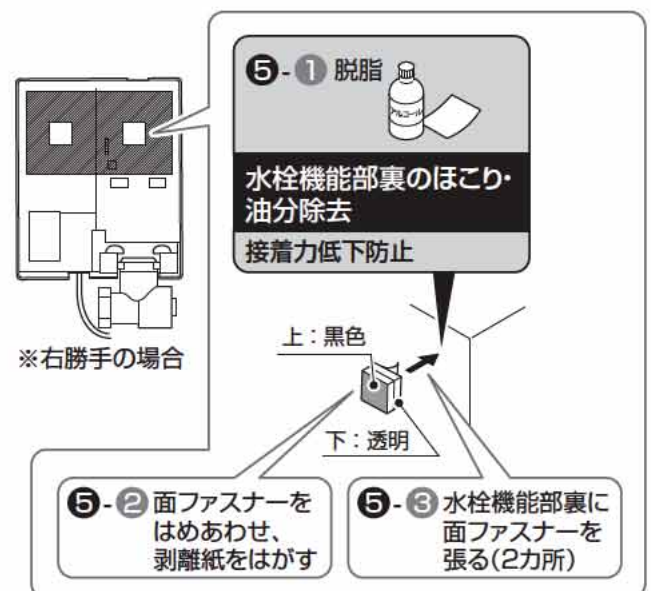
⚠ 注意

！
必ず守る
リングにごみなどが付着していないことを確認
水漏れして建物や設備などをめらす財産損害発生の原因となります。



⑤ 水栓機能部裏への面ファスナー張り付け

面ファスナー張り付け範囲：■



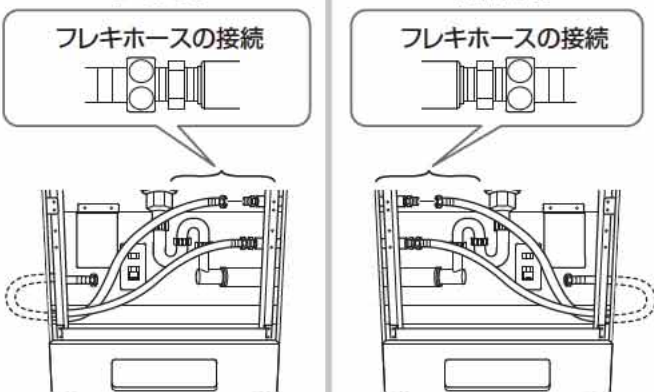
4 止水栓・給水管の接続

① 給水の準備

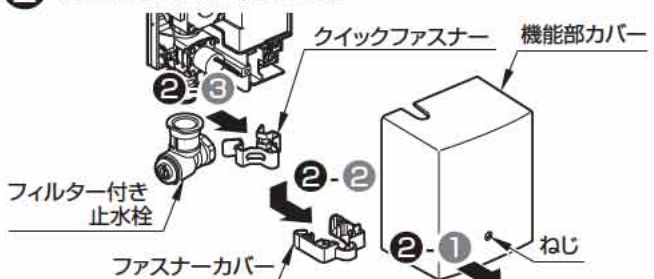
フレキシホースの接続について▶P.51参照

【左勝手】

【右勝手】

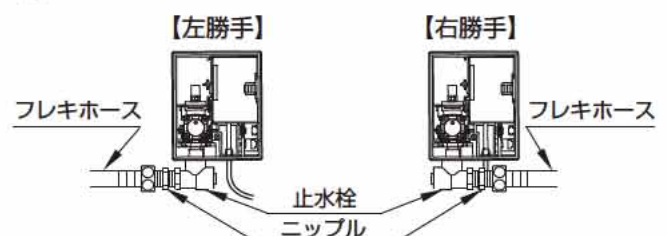


② 自動水栓の取り付け準備



自動水栓の取り付け

⑥ 止水栓とニップル、ニップルとフレキシホースを接続する



⑦ 自動水栓とスパウト側の給水栓と接続する

▶ 水栓同梱施工説明書参照

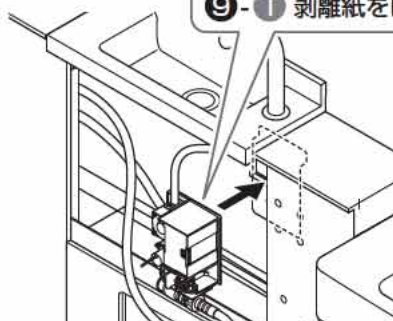
⑧ 水栓機能部取付板を脱脂する

面ファスナー張り付け範囲：■



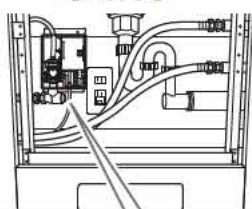
⑨ 水栓機能部の固定

⑨-① 剥離紙をはがす

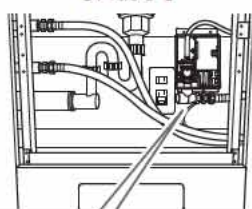


水栓機能部取付位置

【左勝手】

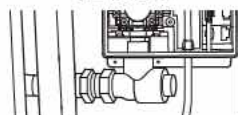


【右勝手】

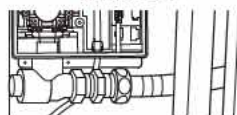


⑨-② 止水栓固定用の穴が見えるように固定する

【左勝手】



【右勝手】

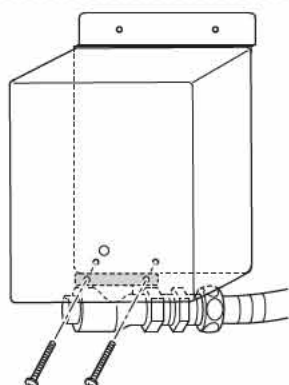


⑩ 機能部カバーを取り付ける

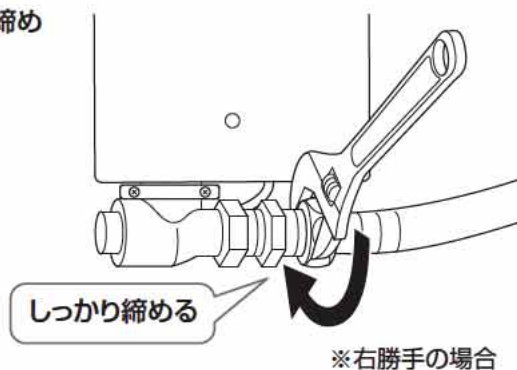
⑪ 止水栓の固定

なべ小ねじ
M4×50(2本)

手締めで



⑫ 増し締め



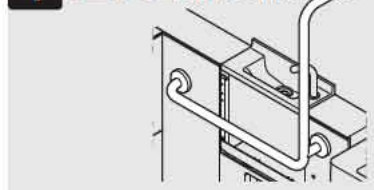
※右勝手の場合

⑬ コンセントに差し、外した前板を取り付ける

MEMO

STEP21.大便器周辺器具類

1 L型手すりの取り付け

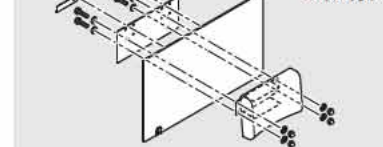


▶P.98

2 ウォシュレットの取り付け

▶ウォシュレット施工説明書参照

3 背もたれ(パウチ・しびん洗浄・大便器の裏前板・水栓付背もたれ)の取り付け



▶P.100

4 ふさぎ板の取り付け



▶P.101

5 サイドカバーの取り付け



▶P.101

6 はね上げ手すりの接続

▶はね上げ手すり施工説明書参照

1 L型手すりの取り付け

2 水平確認 → けがき



3 手すりをいったん外す

4 下穴

【耐水合板下地の場合】
下穴φ4
【コンクリート下地の場合】
下穴φ6、深さ85mm以上

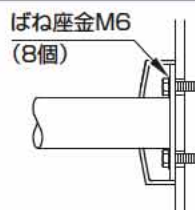


1 壁固定穴をけがくため仮固定する

全ねじ六角ボルト M6×25(8本) ばね座金 M6(8個)

5 L型手すりの取り付け(下部2カ所)

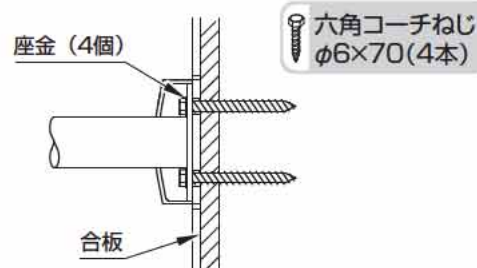
操作系部前板



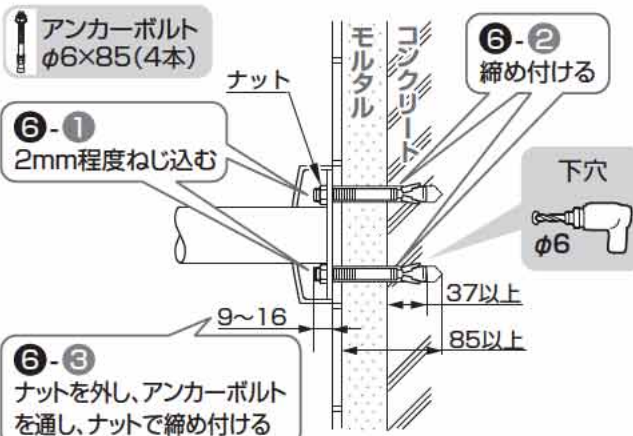
全ねじ六角ボルト M6×25(8本)

6 L型手すりの取り付け(上部1カ所)

耐水合板下地の場合



コンクリート下地の場合



7 カバーを仕上げ面に押し付ける

! 注意



手すりにガタツキやゆるみがないか確認する
必ず守る 手すりが外れ、けがをするおそれがあります。

2 ウォシュレットの取り付け

▶ウォシュレット施工説明書参照

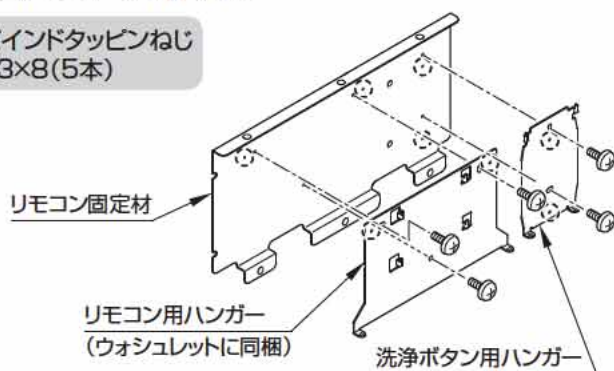
注意

! 再生水仕様の場合、ウォシュレットの給水接続は水道水と再生水を間違えない
必ず守る 故障や皮膚の炎症などをおこす原因となります。

ウォシュレットリモコンの取り付け

1 各ハンガーのねじ固定

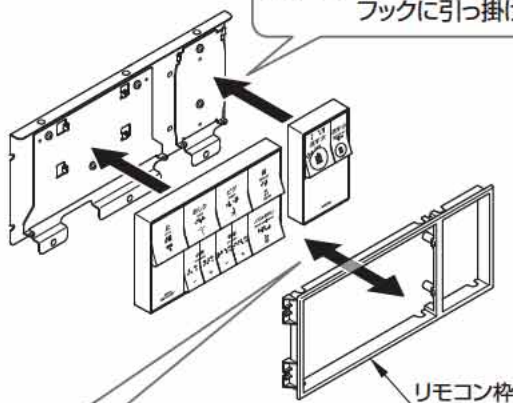
バインドタッピンねじ
φ3×8 (5本)



※○穴位置が合うように固定する。

2 各リモコンのねじ固定

2-1 各リモコンをハンガーのフックに引っ掛ける



2-2 リモコン枠を仮置きし、スムーズに外せることを確認する
(スムーズに着脱できない場合は 1 の位置を確認する)

2-3 リモコン固定材とリモコンを下側から固定する



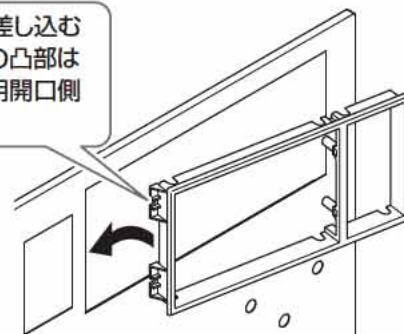
手締めで

六角棒レンチ
対辺2.5mm

各リモコンに付属
六角穴付ねじ
(3本)

3 前板の養生フィルムをはがし、枠を入れる

横の凸部側から差し込む
※リモコン枠横の凸部は
呼出しボタン用開口側
にする。



4 リモコン枠とリモコン固定材の仮固定(4箇所)

手締めで



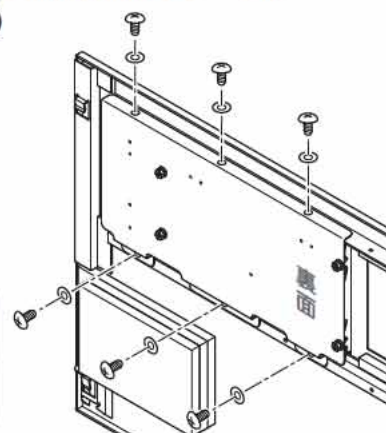
溝にはめる
M4ナット
(2個)

座金組込十字穴付
六角小ねじ
M4×10 (4本)

5 リモコン固定材を前板裏面のフレームに仮固定(6箇所)

バインドタッピンねじ
φ4×8 (6本)

平座金
M6 (6個)



6 リモコンとリモコン枠のすき間が均等になるように調整して 4 と 5 の各ねじを本固定

7 STEP11を参照してリモコン横にふさぎプレートを取り付ける(P.71)

8 前板をライニングに取り付ける

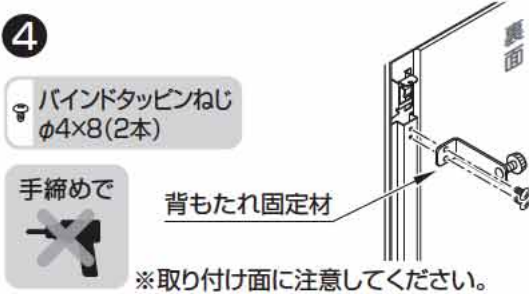
※通電後にリモコン便器洗浄ユニットの施工説明書を参照し、リモコンとウォシュレットの「組み合わせ設定」を行ってください。

※「ウォシュレット本体とウォシュレットリモコンの組み合わせ設定」「便器洗浄モードの設定」は不要です。

3 背もたれ(パウチ・しびん洗浄 水栓付背もたれ)の取り付け

共通

- 1 大便器の甲板を外す
- 2 背もたれを取り付ける前板を外す
- 3 U字切り欠き部分にゴム系接着剤でU字用ブッシュを接着



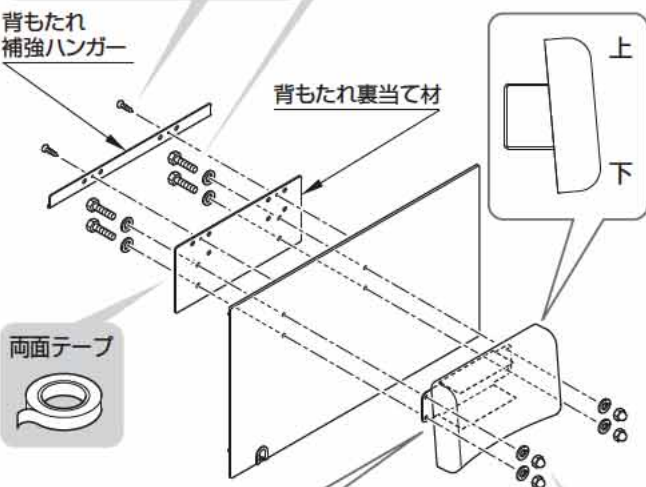
パウチ・しびん洗浄水栓なし・背もたれありの場合

- 5 点検口の裏に背もたれ裏当て材を
両面テープで張り付けておく

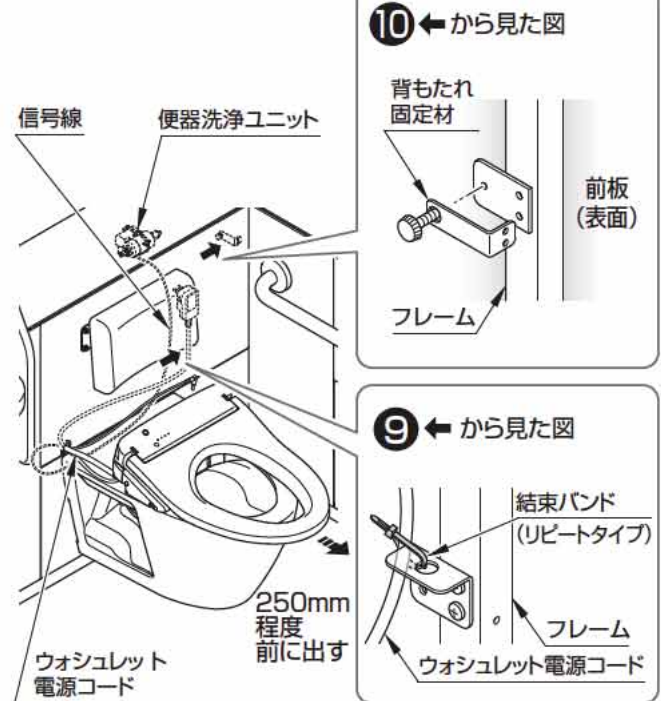
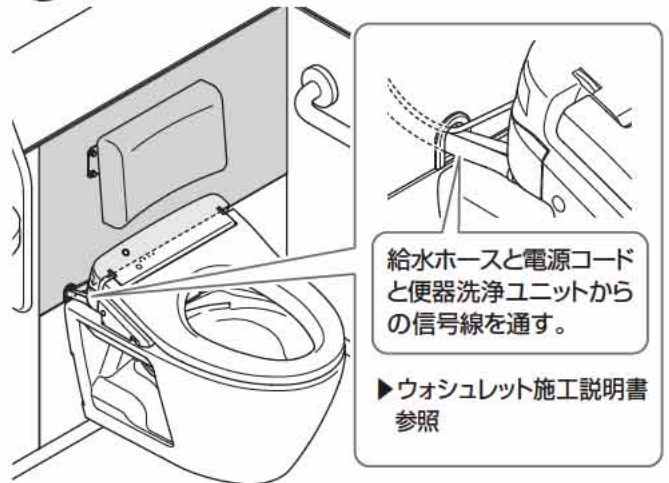
- 6 六角ボルト M6×25(4本) 平座金 M6(4個)

- 7 バインドタッピンねじ
φ4×8(2本)

手締めで



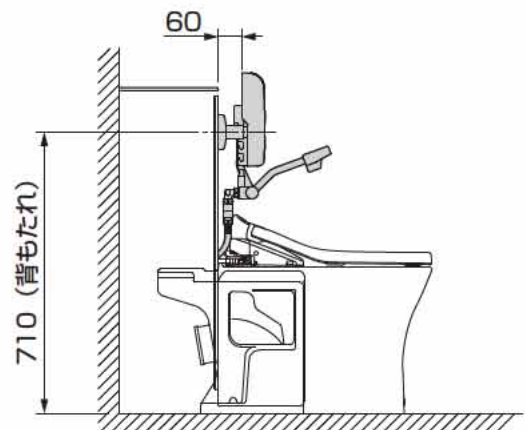
8 前板を取り付ける



11 大便器の甲板を取り付ける

パウチ・しびん洗浄水栓付背もたれの場合

背もたれ取り付け位置 (前出)



5 給水ホースを止水栓に取り付ける

▶接続位置はSTEP4を参照

6 背もたれ裏当て材は点検口の裏に両面テープで張り付けておく

7 仮固定

座付きナット M6(8個) 平座金 M6(8個)

背もたれ補強ハンガー



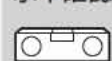
両面テープ

背もたれ裏当て材

9 本固定

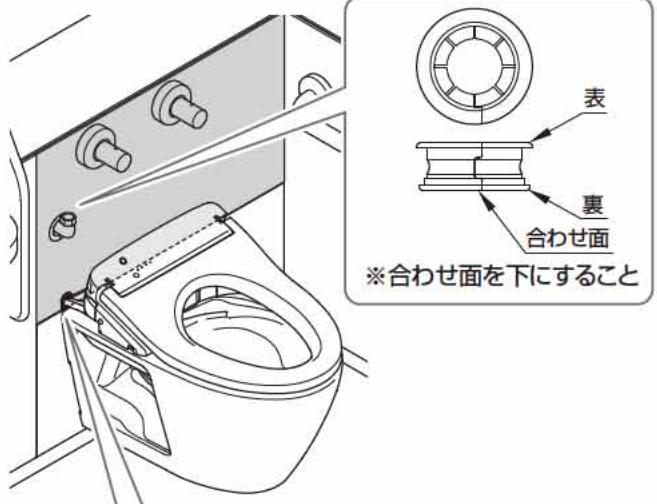
脚フレーム

8 水平確認

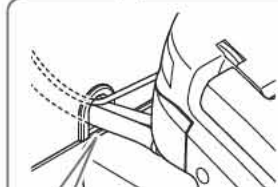


六角ボルト M6×30(8本) ばね座金 M6(8個)

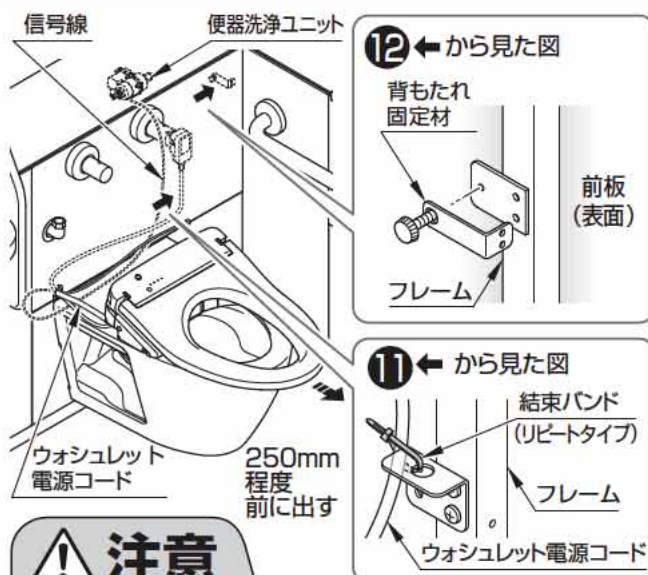
10 前板を取り付ける



▶ウォシュレット施工説明書参照



給水ホースと電源コードと便器洗浄ユニットからの信号線を通す



注意

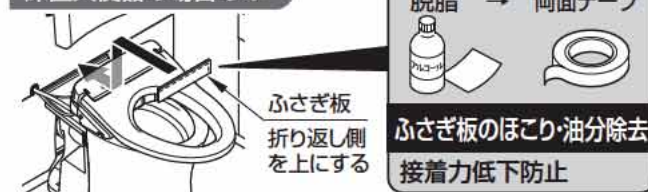
- ・前板で給水ホースを挟まないように注意して取り付ける
- ・給水ホースがキンクしないよう注意する
水漏れし、建物や設備などをめらす財産損害発生のおそれがあります。

13 背もたれを取り付ける

▶パウチ・びびん洗浄水栓および専用背もたれ施工説明書参照

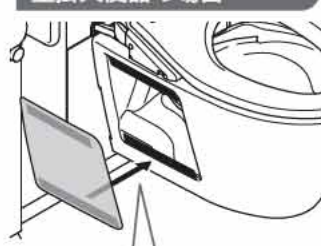
4 ふさぎ板の取り付け

床置大便器の場合のみ



5 サイドカバーの取り付け

壁掛大便器の場合



床置大便器の場合



カバーの養生フィルムをはがしてサイドカバーの面ファスナーと便器の面ファスナーの位置をあわせて取り付け

6 はね上げ手すりの取り付け

▶はね上げ手すり施工説明書参照

STEP22. 試運転・確認

1 水漏れ・ 通水確認



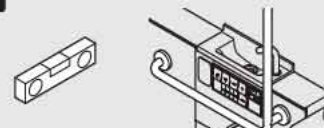
▶P.102

2 水位確認



▶P.104

3 外観・固定部の確認



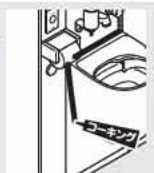
▶P.107

4 ラベルの張り付け



▶P.107

5 シリコン系 シール剤の塗布



▶P.107

1 水漏れ・通水確認

【幼児用小便器部 (幼児用小便器ありの場合)】

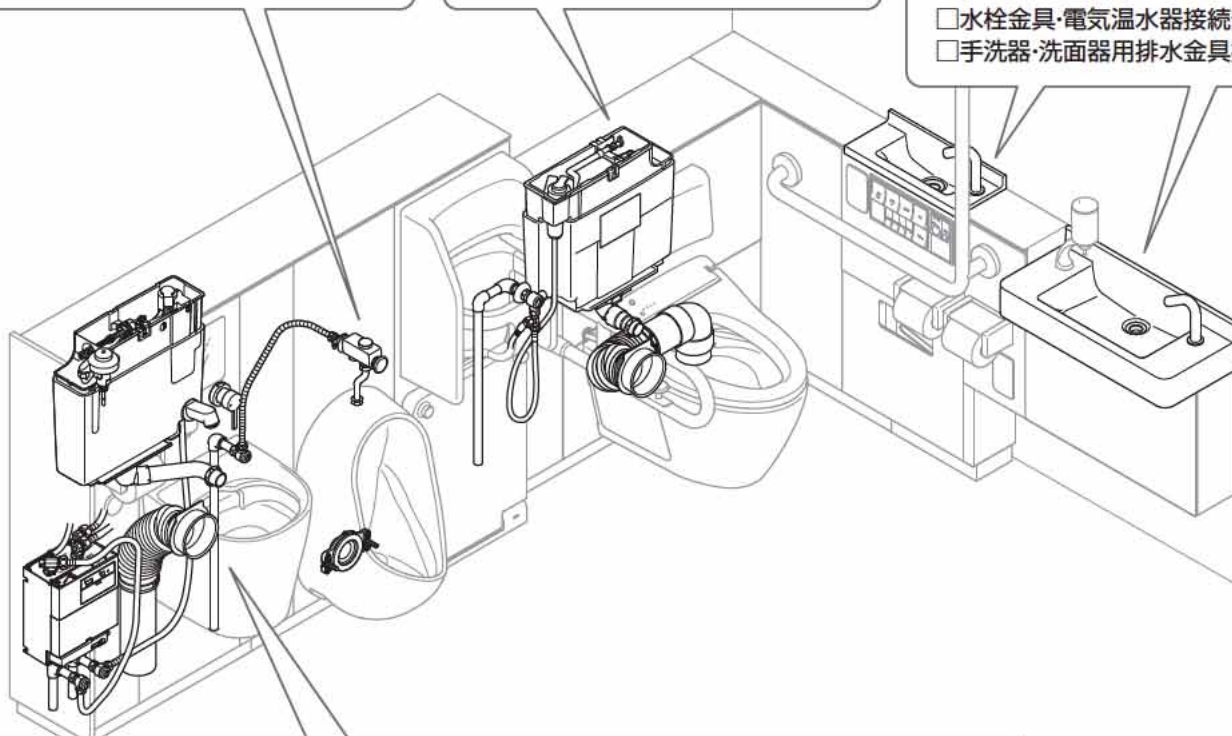
- ☐ 給水一次側(給水管接続部・止水栓まわり)
- ☐ 排水フランジ接続部
- ☐ フラッシュバルブ接続部

【大便器部】

- ☐ 給水一次側(給水管接続部・止水栓まわり)
- ☐ セットタンク接続部
- ☐ 排水ジャバラ接続部
- ☐ ウォシュレット分岐金具接続部

【操作系部・洗面器部 (洗面器ありの場合)】

- ☐ 給水一次側止水栓接続部
- ☐ フレキホース接続部
- ☐ 手洗器・洗面器用止水栓接続部
- ☐ 水栓金具・電気温水器接続部
- ☐ 手洗器・洗面器用排水金具接続部



【汚物流し部(汚物流しありの場合)】

- ☐ 給水一次側(給水管接続部・止水栓まわり)
- ☐ セットタンク接続部
- ☐ 排水フランジ・排水ジャバラ接続部
- ☐ 水栓金具(シングルレバー・スバウト)・電気温水器・バキュームブレーカー・サーモスタット接続部

※大便器部・幼児用小便器部・汚物流し部(幼児用小便器部・汚物流し部ありの場合)の排水接続部に水漏れが見られる場合は、排水パッキンの取り付けから再施工してください。

① 通水確認

【ポイント】

- ☐ 全ての器具、配管などの連結部が完全に接続されているか
- ☐ 電気配線に間違いがないか
- ☐ 電気温水器の試運転は、電気温水器の施工説明書を確認
- ☐ 元バルブ開閉は静かにゆっくりと開閉する
- ☐ 止水栓・スパウトのフィルター・網目に詰まった異物はブラシなどで取り除く
(初期通水の場合、配管工事上の異物が混入していることがあるため、各器具部で詰まり、噛みこみが発生し、正しい流量・作業が確保されないことがある)

⚠ 注意

通水試験後に止水栓のフィルター清掃を行う(自動水栓、電気温水器)

フィルターに付着したごみが機器内に入り、水漏れして建物や設備などをめらす財産損害発生の原因となります。



必ず守る

フィルター清掃時は、いきなりフィルターキャップをゆるめず、止水栓を閉めてから行う

水が噴き出して、建物や設備などをめらす財産損害発生の原因となります。



② 必要な水圧の確認

最低必要水圧:0.05MPa(流動時)

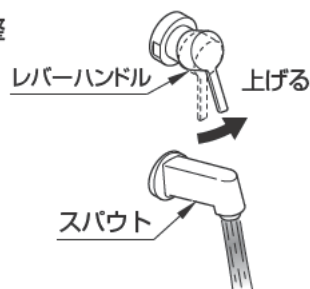
最高水圧:0.75MPa(静止時)

汚物流しの場合

③ 汚物流し吐水流量の調整

【水出し確認】

- ☐ レバーハンドルを上げて、吐水口から水が出るか
- ☐ 水栓本体、レバーハンドルにガタツキがないか

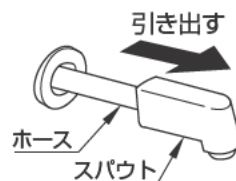


故障ではありません

- ▶ 吐水はじめに、一度少量の水が出て一瞬止まり、その後本吐水しはじめる
バキュームブレーカーとスパウトの間のホースに残った水が一度スパウトから排出されるものであり、故障ではありません。
- ▶ 水栓の水を止めたあと、スパウトからしばらく水が垂れる
水栓内部の残留水が排出されるものであり、故障ではありません。

【操作確認】

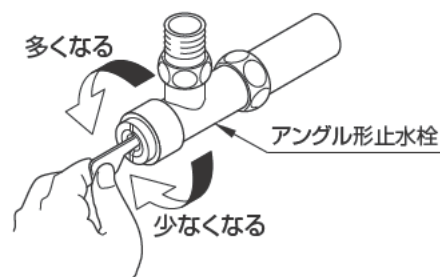
- ☐ スパウトが汚物流しボウルの先端付近までスムーズに引き出せるか



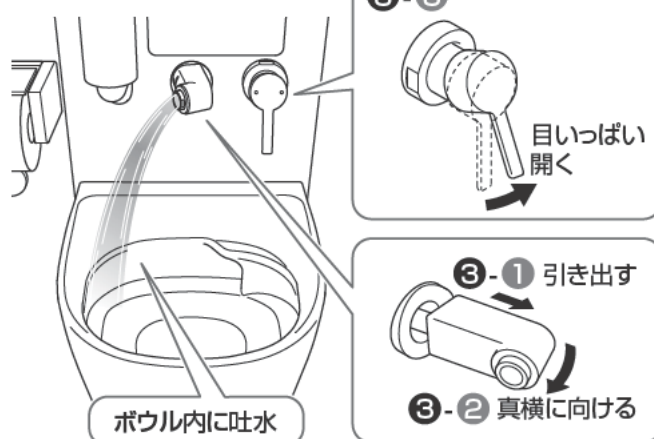
- ▶ 引き出せない場合は、ホースがフレーム内で各器具に干渉していないか確認してください。

【吐水流量の調整、および温度の確認】

全閉した状態から調整をはじめてください。



〈吐水流量の調整〉



※ハンドルを目いっぱい開いても、吐水が汚物流しのボウル内に納まるように、止水栓で水勢を調整ください。

⚠ 注意



必ず守る

吐水流量の調整は必ず行う

吐水が汚物流しの外に飛び出し、建物や設備などをめらす財産損害発生の原因となります。

幼児用小便器の場合

(吐水量の調節手順)

④ フラッシュバルブの止水栓を全閉にする

⑤ 水を流しながら徐々に止水栓を開けていき、
小便器の先端まで水が回るように調整する

【手押しフラッシュバルブ】



※水の勢いが強すぎると、洗浄飛沫・水飛びが多く発生する場合があります。

洗浄水が導水段先端まで
十分に回るように調整する

2 水位確認

水たまり面が低い場合は必ず設定してください。

正常な状態

設定変更不要です。

この面まで
水がたまっている設定を行うと、洗浄不良に
なる場合があります。

水たまり面が低い

▶ P.105

「水たまり面が低い場合の
対応方法」この面(斜線部分)まで
水がたまっていない

汚物付着の原因になります。

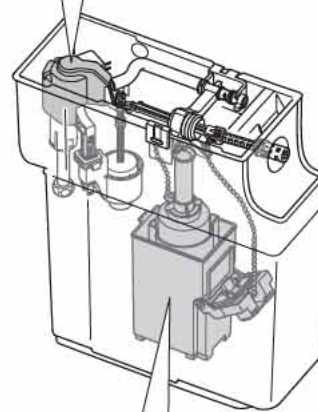
〈水たまり面 低下の理由〉

- ・排水管に曲がりが多い
- ・通気が不十分

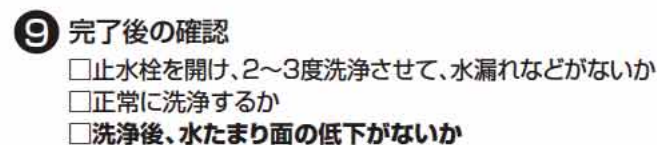
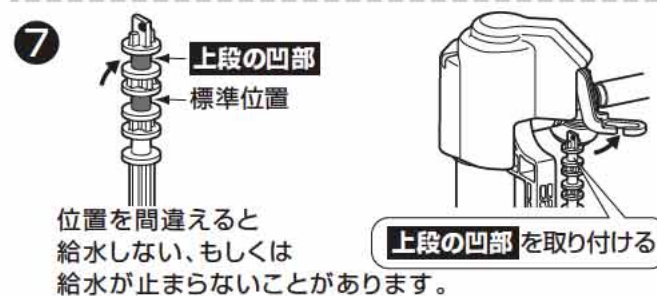
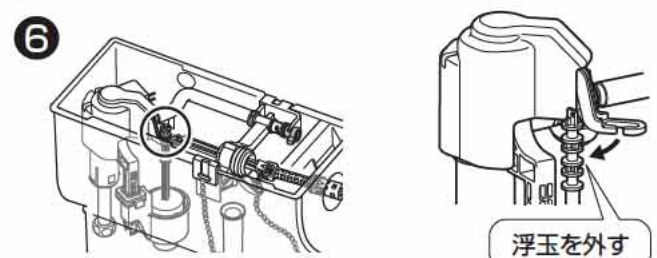
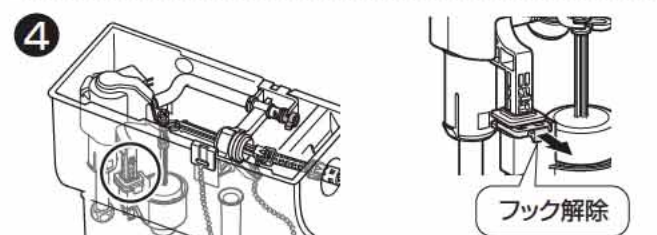
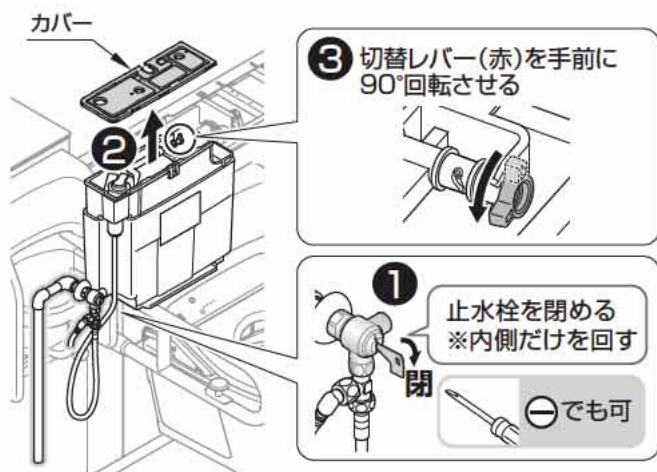
〈水たまり面の判断に迷ったときは…〉

ベットボトルやバケツなどで徐々に水をたし、
水たまり面が上昇しない場合は正常です。

タンク内を調整する際のご注意

漏水防止カバーを
外さない制御筒に力を加えない
排水弁が浮いて、水が流れっぱなし
になるおそれがあります。

水たまり面が低い場合の対応方法



自治体によって洗浄水量の規制がある場合

【変更前】

大洗浄	4.8L
小洗浄	3.6L

大洗浄	6L
小洗浄	4.8L

大洗浄	8L
小洗浄	7.5L

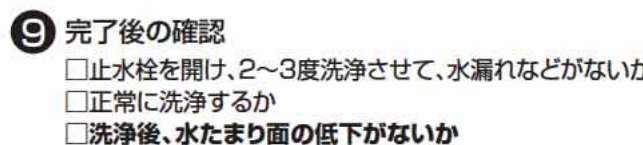
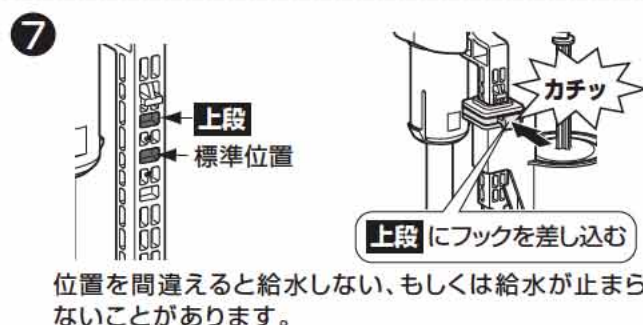
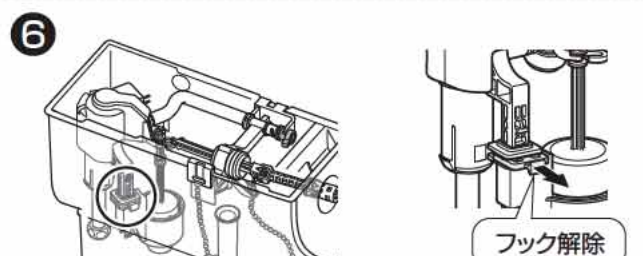
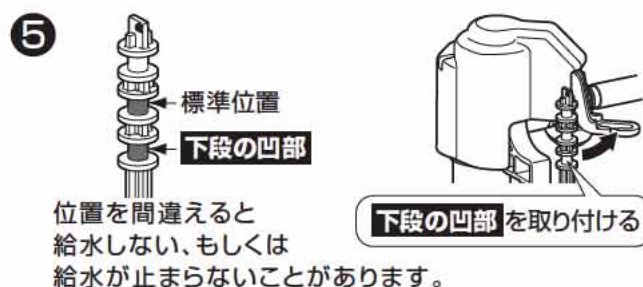
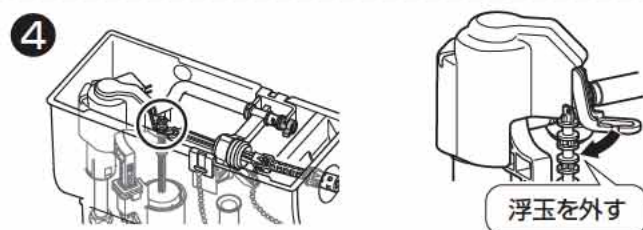
変更
できます。

大洗浄6L、小洗浄4.8L への切替方法

①～③

▶P.105左 水たまり面が低い場合の対応方法 の

①～③を実施



大洗浄8L、小洗浄7.5L への切替方法

①～⑦

▶P.105右 大洗浄6L、小洗浄4.8L の①～⑦を実施

⑧

先の長いマイナスドライバー
を差し込む

切替弁を下げる

⑨ カバーを元にもどす

⑩ 完了後の確認

- ☐ 止水栓を開け、2～3度洗浄させて、水漏れなどがないか
- ☐ 正常に洗浄するか
- ☐ 洗浄後、水たまり面の低下がないか

切替弁を下げられなかった場合

① カバーを外す

② 玉鎖を外す

③ 制御筒を反時計回りに回し
▲をあわせる

④ 外す

制御筒

タンク

注意

制御筒の取り外し時に樹脂タンクに傷を
付けないこと

⑤ 切替弁を下げる

⑥ ▲をあわせて
取り付ける⑦ 制御筒を時計回りに
回す

⑧ 玉鎖を取り付ける

3玉

3玉

正しく取り付けないと止水不良になります。

⑨ カバーを元にもどす

⑩ 完了後の確認

- ☐ 止水栓を開け、2～3度洗浄させて、水漏れなどがないか
- ☐ 正常に洗浄するか
- ☐ 洗浄後、水たまり面の低下がないか

3 外観・固定部の確認

【外観に問題がないことを確認】

- ☐ 取り付け忘れの器具がないか
- ☐ 寸法が間違っていないか(奥行き・高さ・間口寸法)
- ☐ 水平・垂直が正しくとれているか
- ☐ フレーム内部が露出していないか
(前板・フィラー・幅木が正しく取り付けられているか。)

【取付部の固定はゆるんでいないかを確認】



警告



各部の固定・連結がゆるんでいないか確認する器具が落下して使用される方のけがの原因となります。

- ☐ 甲板全体を強く押し付けて取り付ける
 - ☐ 手すりの固定がゆるい場合は、増し締めする
- ▶ 本施工説明書もしくは手すりの施工説明書参照

4 ラベルの張り付け

はね上げ手すり、フィッティングボード、汚物流しの使いかたラベルを見やすい場所に張り付けてください。

注意

ラベルの張り付けは、確実に行う

張り付けない場合は、確実にお客様にお渡しください。

汚物流し使いかたラベル
※汚物流し部フレーム部
部品セットに同梱



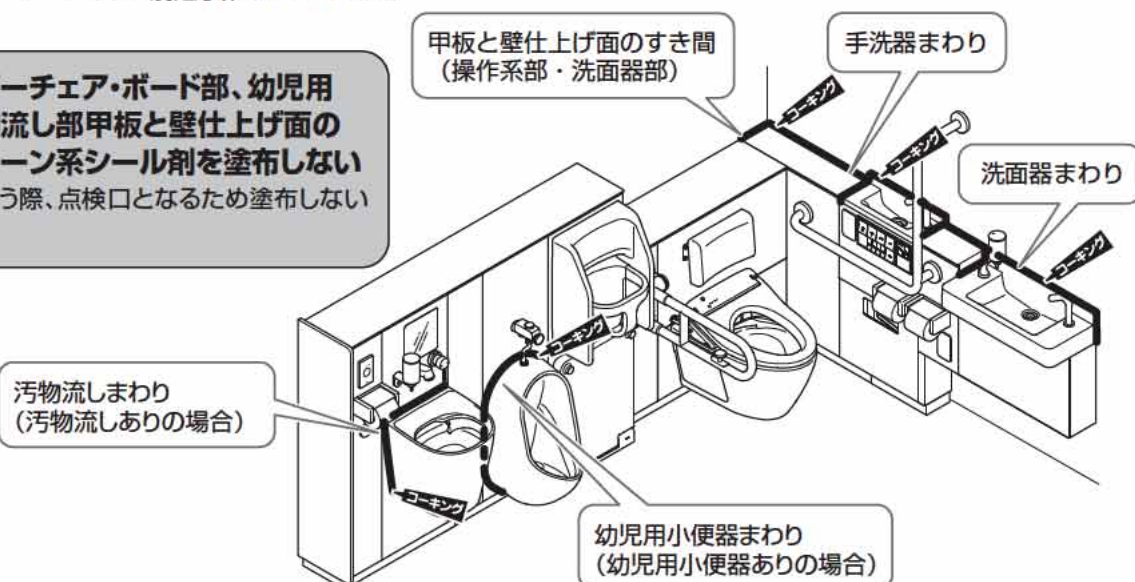
※図は推奨位置です。

5 シリコン系シール剤の塗布

操作系部甲板・洗面器部と壁仕上り面のすき間や各器具類の周囲はシリコンコーキングで仕上げることをおすすめします。サイドカバーのすき間が気になる場合も、サイドカバーの上面と前方縦面もシリコンコーキングで仕上げることをおすすめします。シリコンコーキングは別途手配してください。

注意

大便器部、ベビーチェア・ボード部、幼児用小便器部、汚物流し部甲板と壁仕上り面のすき間はシリコン系シール剤を塗布しないメンテナンスを行う際、点検口となるため塗布しないでください。



【お引渡し前に】取扱説明書は必ずお客様にお渡しください。

工事店様へ

このたびはコンパクト多機能トイレパックを施工いただき、ありがとうございました。